第３章 生活領域の政策課題

１．生活価値観の選択（問５）

（１）　県民の生活価値観（問５全体）

県民の生活に対する考え方（生活価値観）に関して、8つの項目について回答を求めた。

（１）仕事と余暇に関する価値観では、余暇優先派（60.0%）が仕事優先派（38.5%）を上回っている。

（２）精神的豊かさと物質的豊かさに関する価値観では、精神的豊かさ重視派（79.3%）が約8割を占め、物質的豊かさ重視派（19.2%）を大きく上回っている。

（３）女性の家事専念と社会進出に関する価値観では、社会進出派（80.9%）が8割を占め、家事・育児専念派（17.5%）を大きく上回っている。

（４）男性の家事専念と社会活動に関する価値観では、家事・育児専念派（55.8%）が社会で活動派（42.5%）を上回っている。

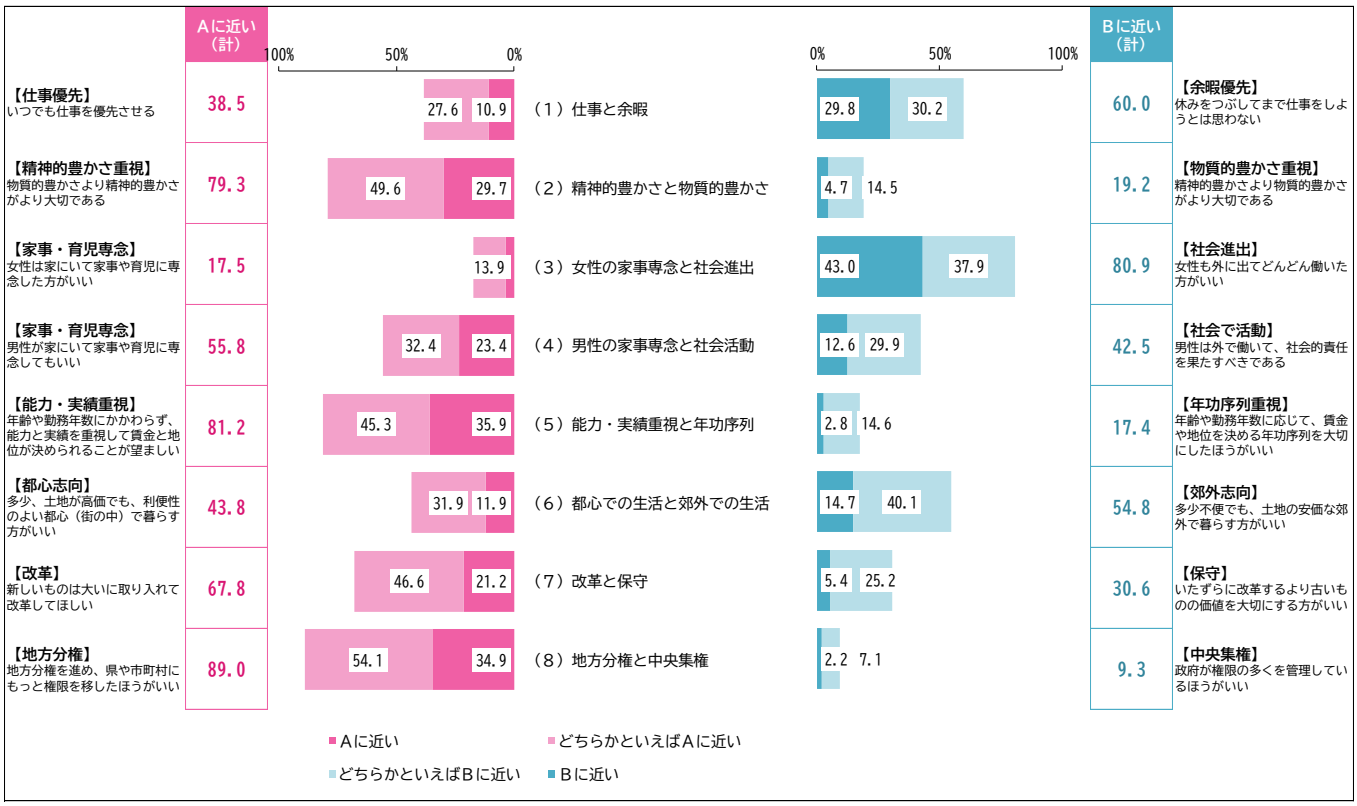
（５）能力・実績重視と年功序列に関する価値観では、能力・実績重視派（81.2%）が8割を占め、年功序列重視派（17.4%）を大きく上回っている。

（６）都心での生活と郊外での生活に関する価値観では、郊外志向派（54.8%）が都市志向派（43.8%）を上回っている。

（７）改革と保守に関する価値観では、改革派（67.8%）が7割弱を占め、保守派（30.6%）を上回っている。

（８）地方分権と中央集権に関する価値観では、地方分権派（89.0%）が9割弱を占め、中央集権派（9.3%）を大きく上回っている。

図表Ⅱ－３－１ 県民の生活価値観（全体）



（２）　仕事と余暇に関する価値観（問５－１）

仕事と余暇に関する価値観について、時系列でみると、余暇優先は平成 21 年を除いて徐々に増加し、今回調査（60.0%）で6割と、仕事優先派（38.5%）を 21.5 ポイント上回っている。

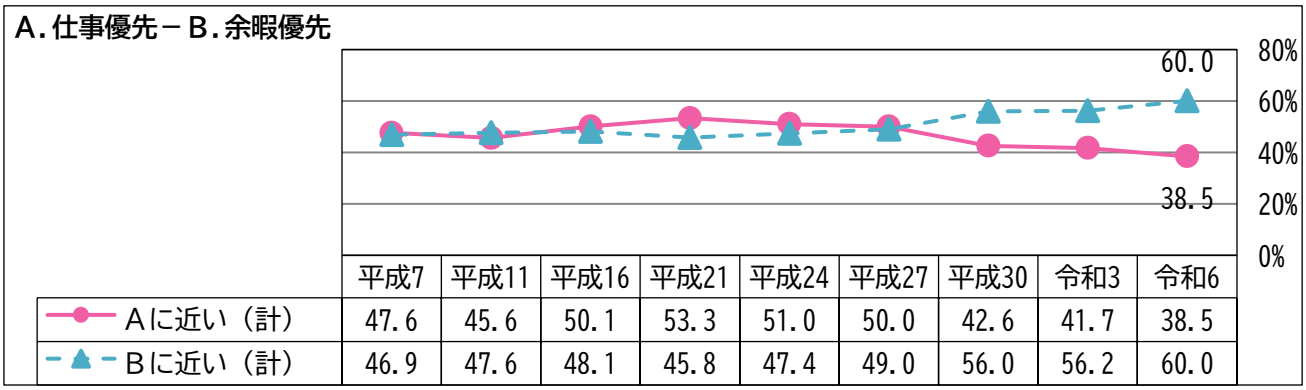
地域別にみると、仕事優先派の割合は宮古（51.6%）が、余暇優先派の割合は南部（63.2%）が最も高い。

年代別にみると、余暇優先派の割合は 10 から 30 代の若年層では7割を超えるが、概ね年代が高まるとともに低下し、代わって仕事優先派の割合が高まる。

性別にみると、仕事優先派は男性（41.5%）が女性（36.4%）よりも高い。

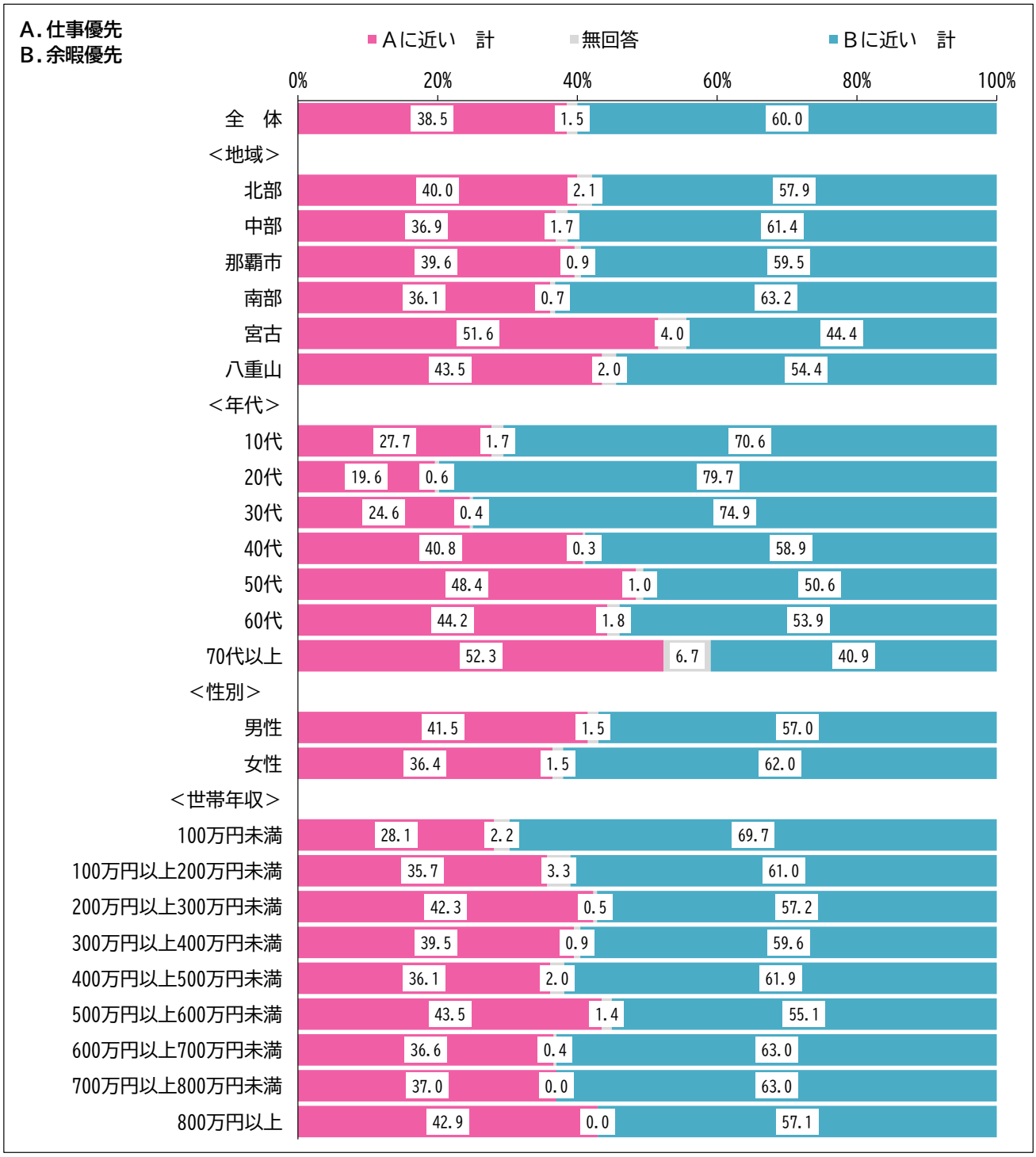
世帯年収別にみると、余暇優先派の割合は、100 万円未満が 69.7%と最も高い。

図表Ⅱ－3－2 仕事と余暇に関する価値観（時系列比較）



	平成7	平成11	平成16	平成21	平成24	平成27	平成30	令和3	令和6
Aに近い（計）	47.6	45.6	50.1	53.3	51.0	50.0	42.6	41.7	38.5
Bに近い（計）	46.9	47.6	48.1	45.8	47.4	49.0	56.0	56.2	60.0

図表Ⅱ－３－３ 仕事と余暇に関する価値観（地域別・年代別・性別・世帯年収別）



（３）　精神的豊かさと物質的豊かさに関する価値観（問５－２）

精神的豊かさと物質的豊かさに関する価値観について、時系列でみると、精神的豊かさを選好する割合が一貫して高くなっており、物質的豊かさは、平成 30 年の調査以降徐々に減少している。

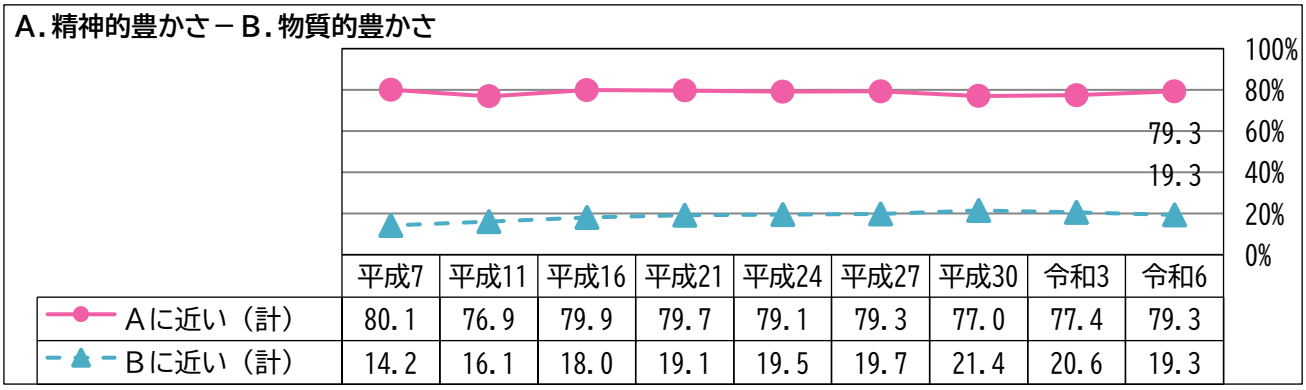
地域別にみると、精神的豊かさに対する価値観を選好する割合は、八重山（81.0%）で最も高く、物質的豊かさを選好する割合は、那覇市（22.7%）で最も高くなっている。

年代別にみると、物質的豊かさに対する価値観を選好する割合は 30 代（22.6%）が最も高く、精神的豊かさに対する価値観を選好する割合は 60 代（84.6%）で最も高くなっている。

性別にみると、男女とも精神的豊かさを選好する割合が高く、物質的豊かさを選考する割合は、男性（20.8%）が女性（18.2%）より高い。

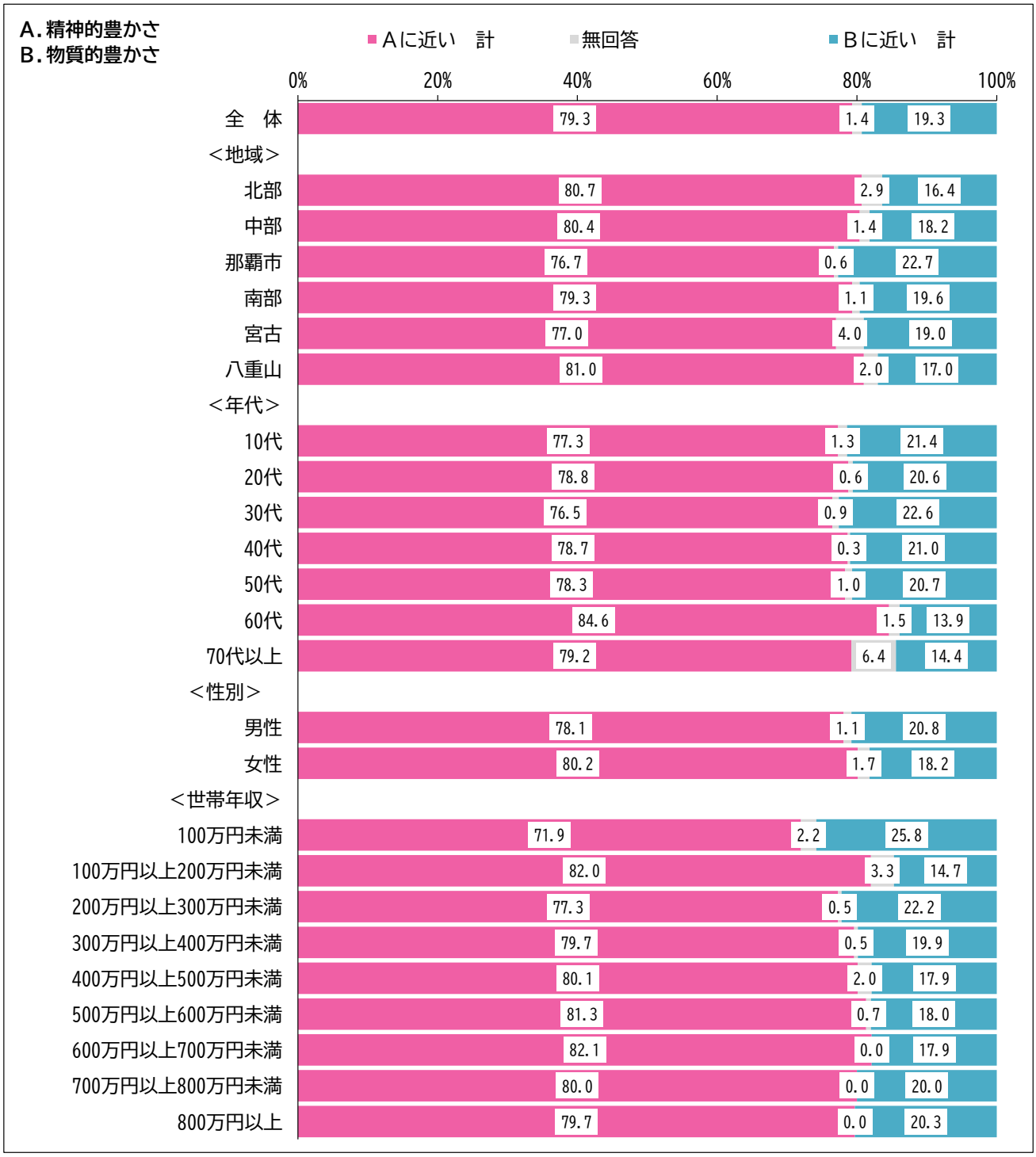
世帯年収別にみると、精神的豊かさを選好する割合は、600 万円以上 700 万円未満（82.1%）で最も高くなっている。

図表Ⅱ－３－４ 精神的豊かさと物質的豊かさに関する価値観（時系列比較）



	平成7	平成11	平成16	平成21	平成24	平成27	平成30	令和3	令和6
Aに近い（計）	80.1	76.9	79.9	79.7	79.1	79.3	77.0	77.4	79.3
Bに近い（計）	14.2	16.1	18.0	19.1	19.5	19.7	21.4	20.6	19.3

図表Ⅱ－３－５ 精神的豊かさと物質的豊かさに関する価値観（地域別・年代別・性別・世帯年収別）



（４）　女性の家事専念と社会進出に関する価値観（問５－３）

女性の家事専念と社会進出に関する価値観について、時系列でみると、女性の社会進出と家事専念の割合の差は平成7年で 7.8 ポイントであったが、徐々に広がり、令和6年では 63.5 ポイントとなっている。

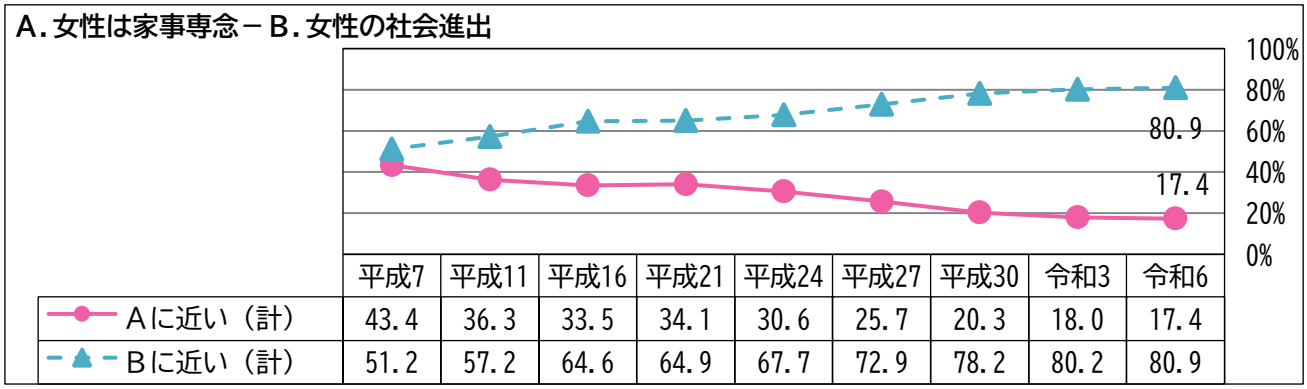
地域別にみると、女性の社会進出派の割合は、南部（84.2%）、中部・宮古（81.0%）、北部（80.7%）で8割を超えている。

年代別にみると、女性の社会進出派の割合は、60 代（83.4%）、50 代（83.0%）、10 代（81.9%）、30 代（80.3%）20 代（80.1%）で8割を超えている。

性別にみると、女性の社会進出派の割合は、男性（79.9%）より、女性（81.6%）の割合が上回っている。

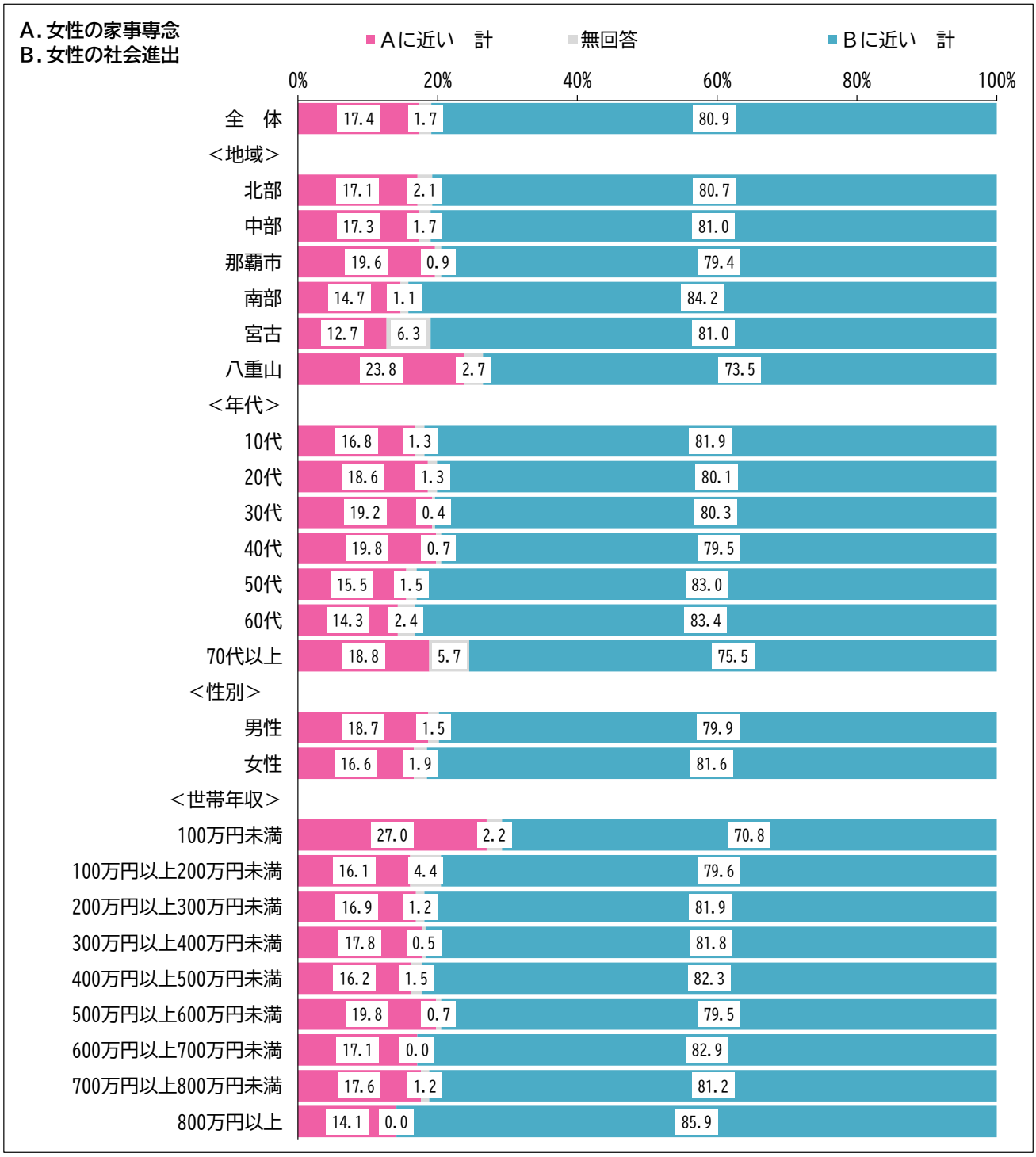
世帯年収別にみると、女性の社会進出の支持は年収 800 万円以上（85.9%）で最も高くなっている。

図表Ⅱ－3－6 女性の家事専念と社会進出に関する価値観（時系列比較）



	平成7	平成11	平成16	平成21	平成24	平成27	平成30	令和3	令和6
Aに近い（計）	43.4	36.3	33.5	34.1	30.6	25.7	20.3	18.0	17.4
Bに近い（計）	51.2	57.2	64.6	64.9	67.7	72.9	78.2	80.2	80.9

図表Ⅱ－３－７ 女性の家事専念と社会進出に関する価値観（地域別・年代別・性別・世帯年収別）



（５）　男性の家事専念と社会活動に関する価値観（問５－４）

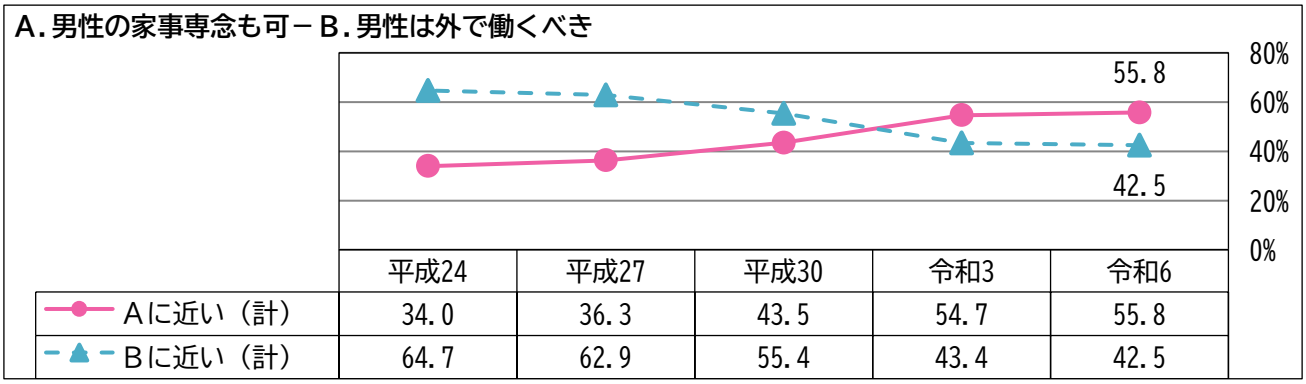
男性の家事専念と社会進出に関する価値観について、平成 30 年の調査までは「男性は外で働くべき」の割合が高かったが、令和3年の調査以降「男性の家事専念も可」の割合が「男性は外で働くべき」の割合を上回り、今回調査では「男性の家事専念も可」（55.8％）と「男性は外で働くべき」（42.5％）の差が前回調査よりも2ポイント増加している。

地域別にみると、「男性の家事専念も可」について那覇市（60.4％）が最も高くなっている。

年代別にみると、10 代から 40 代では、「男性の家事専念も可」については6割を超えている。一方、年代が上がるにつれて、「男性は外で働くべき」の割合が概ね高くなっている。

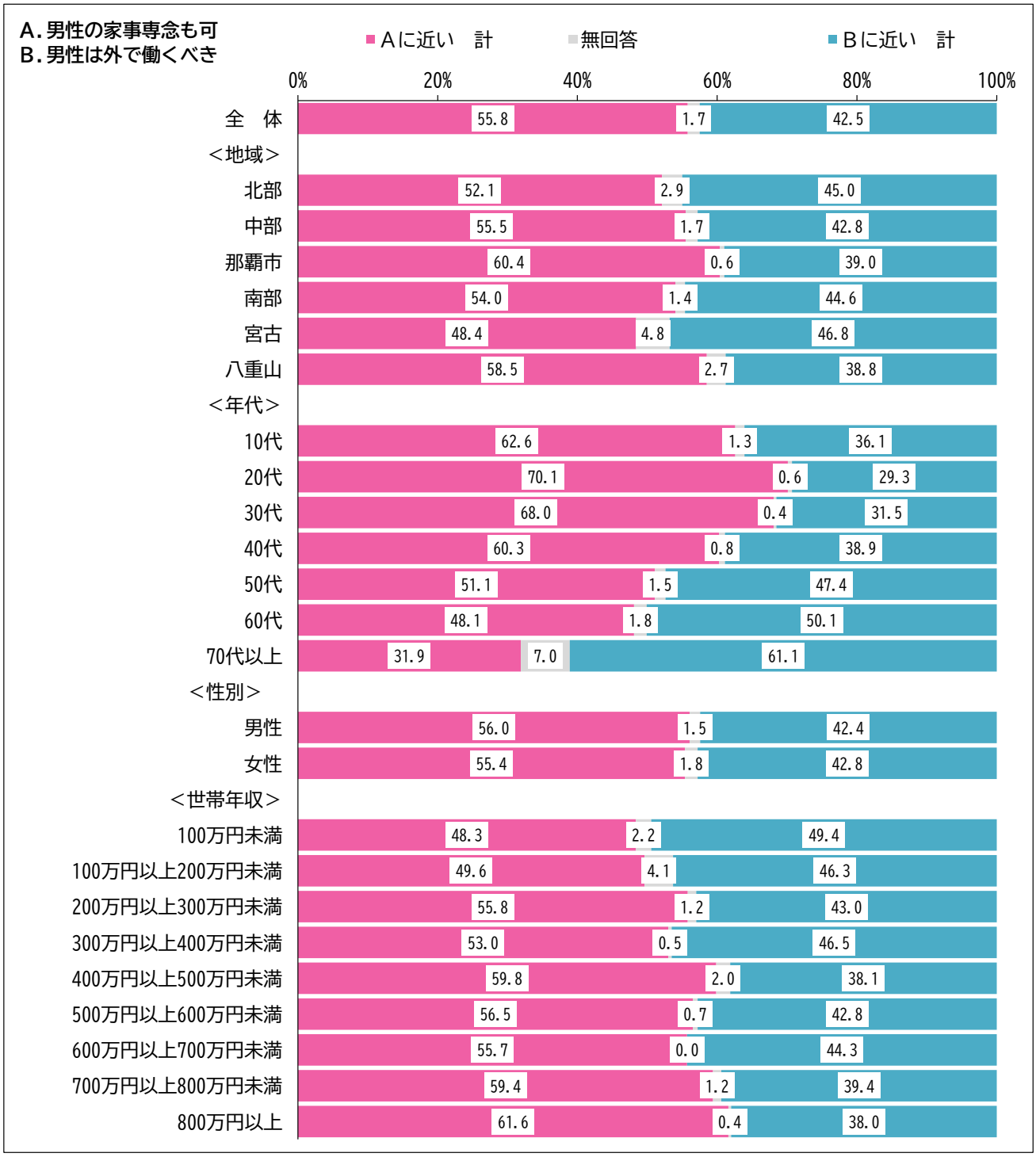
世帯年収別にみると、「男性は外で働くべき」の割合は 100 万円未満（49.4％）で最も高くなっている。

図表Ⅱ－3－8 男性の家事専念と社会活動に関する価値観（時系列比較）



	平成24	平成27	平成30	令和3	令和6
Aに近い（計）	34.0	36.3	43.5	54.7	55.8
Bに近い（計）	64.7	62.9	55.4	43.4	42.5

図表Ⅱ－３－９ 男性の家事専念と社会活動に関する価値観（地域別・年代別・性別・世帯年収別）



（６）　能力･実績重視と年功序列に関する価値観（問５－５）

能力･実績重視と年功序列に関する価値観について、時系列でみると、多少の変動はあるものの能力･実績重視が増加している。

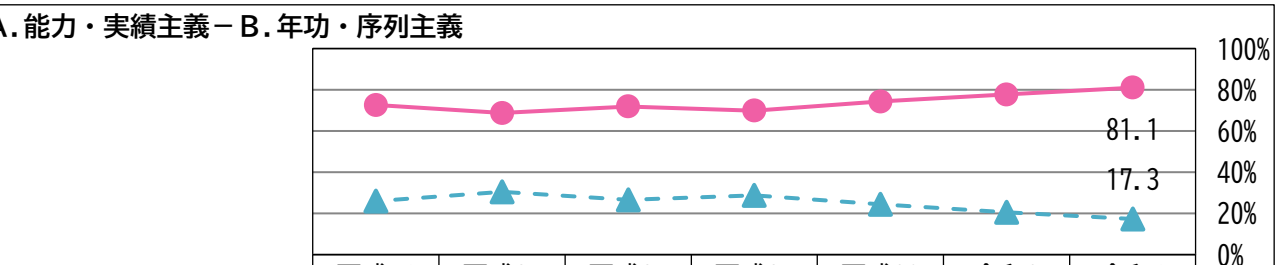
地域別にみると、年功･序列主義派は那覇市(20.6%)で最も高くなっている。

年代別にみると、20 代から 40 代では能力･実績主義派が9割弱で他の年代よりも高くなっている。

性別にみると、能力･実績主義派の割合が男性(79.5%)、女性(82.4%)で女性の割合が上回っている。

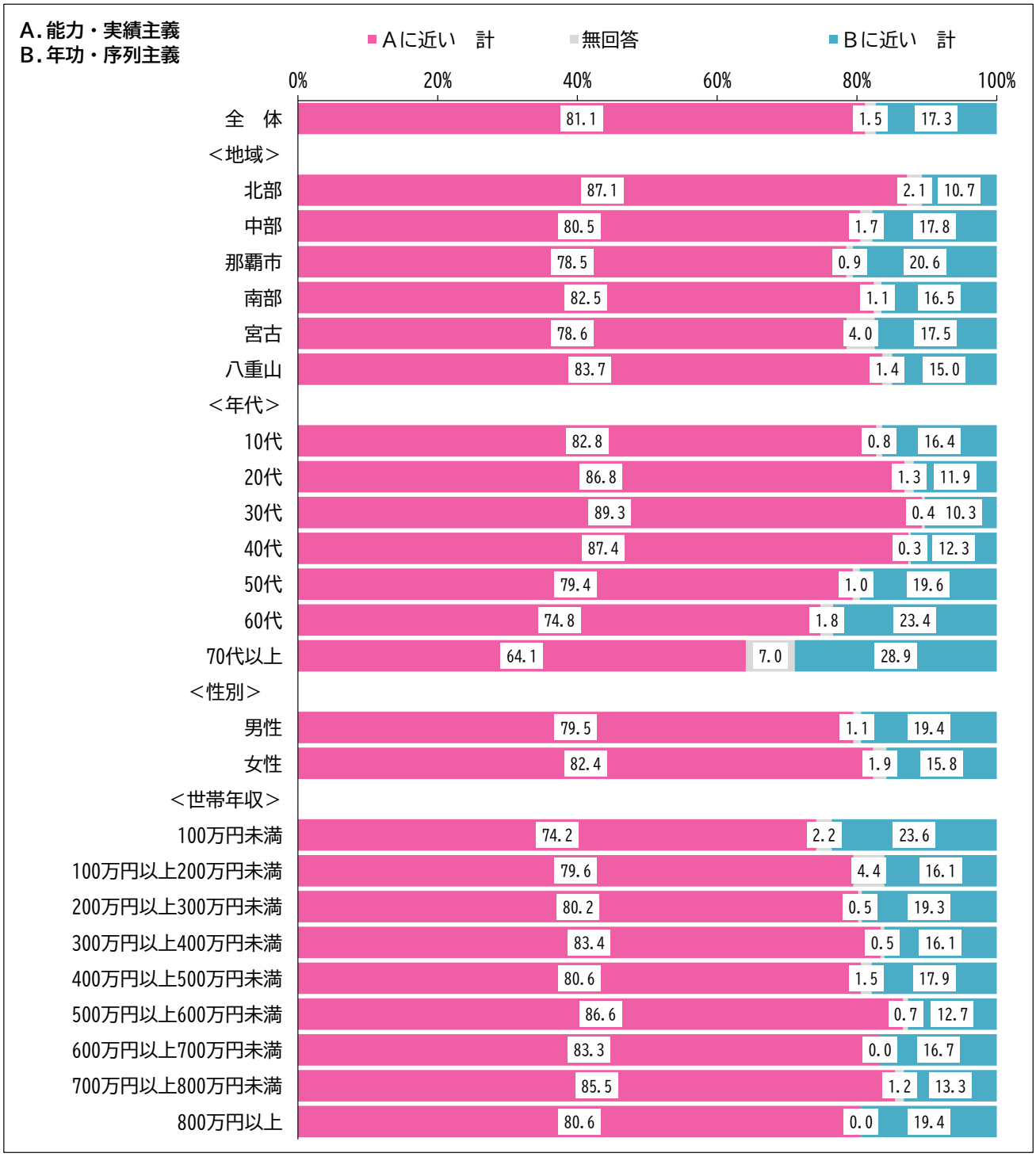
世帯年収別にみると、能力･実績主義派は年収 500 万円以上 600 万円未満(86.6%)で最も高くなっている。

図表Ⅱ－3－10 能力･実績重視と年功序列に関する価値観（時系列比較）



	平成16	平成21	平成24	平成27	平成30	令和3	令和6
Aに近い（計）	72.6	68.7	71.9	69.9	74.3	77.7	81.1
Bに近い（計）	26.0	30.4	26.6	28.8	24.4	20.5	17.3

図表Ⅱ－３－11 能力・実績重視と年功序列に関する価値観（地域別・年代別・性別・世帯年収別）



（７）　都心での生活と郊外での生活に関する価値観（問５－６）

都心での生活と郊外での生活に関する価値観について、平成 30 年の調査以降、令和3年の調査で、郊外での生活派の割合が微増し、都心での生活派が低下している。今回調査でも「郊外での生活」(54.7%)が「都心での生活」(43.9%)よりも高くなっており、前回調査よりも割合の差が 2.7 ポイント増加した。

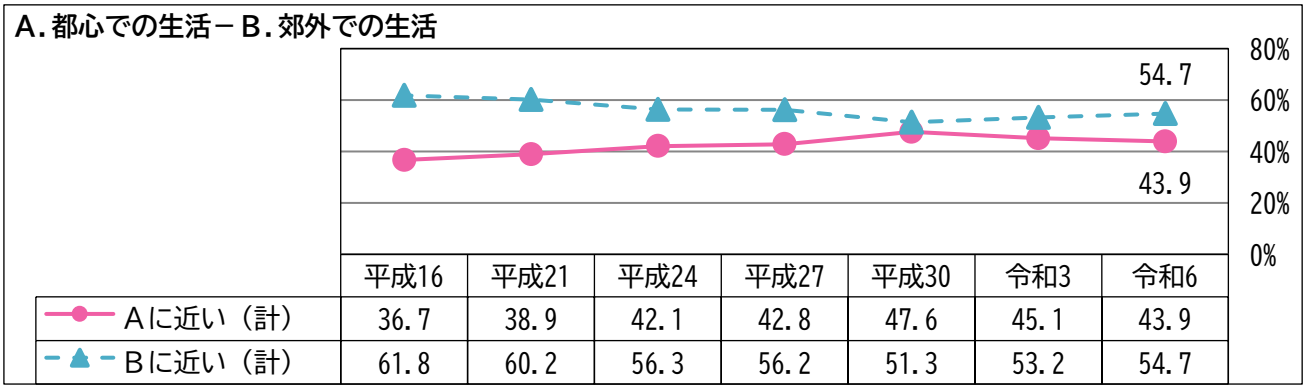
地域別にみると、都心での生活志向派の割合は、那覇市(65.0%)で最も高く、郊外志向派は、南部(70.9%)で最も高くなっている。

年代別にみると、都心での生活志向派の割合は、20 代(60.5%)で最も高く、郊外志向派は、60 代(62.2%)で最も高くなっている。

性別にみると、都心での生活志向派の割合は女性(46.0%)が男性(41.1%)を上回っている。

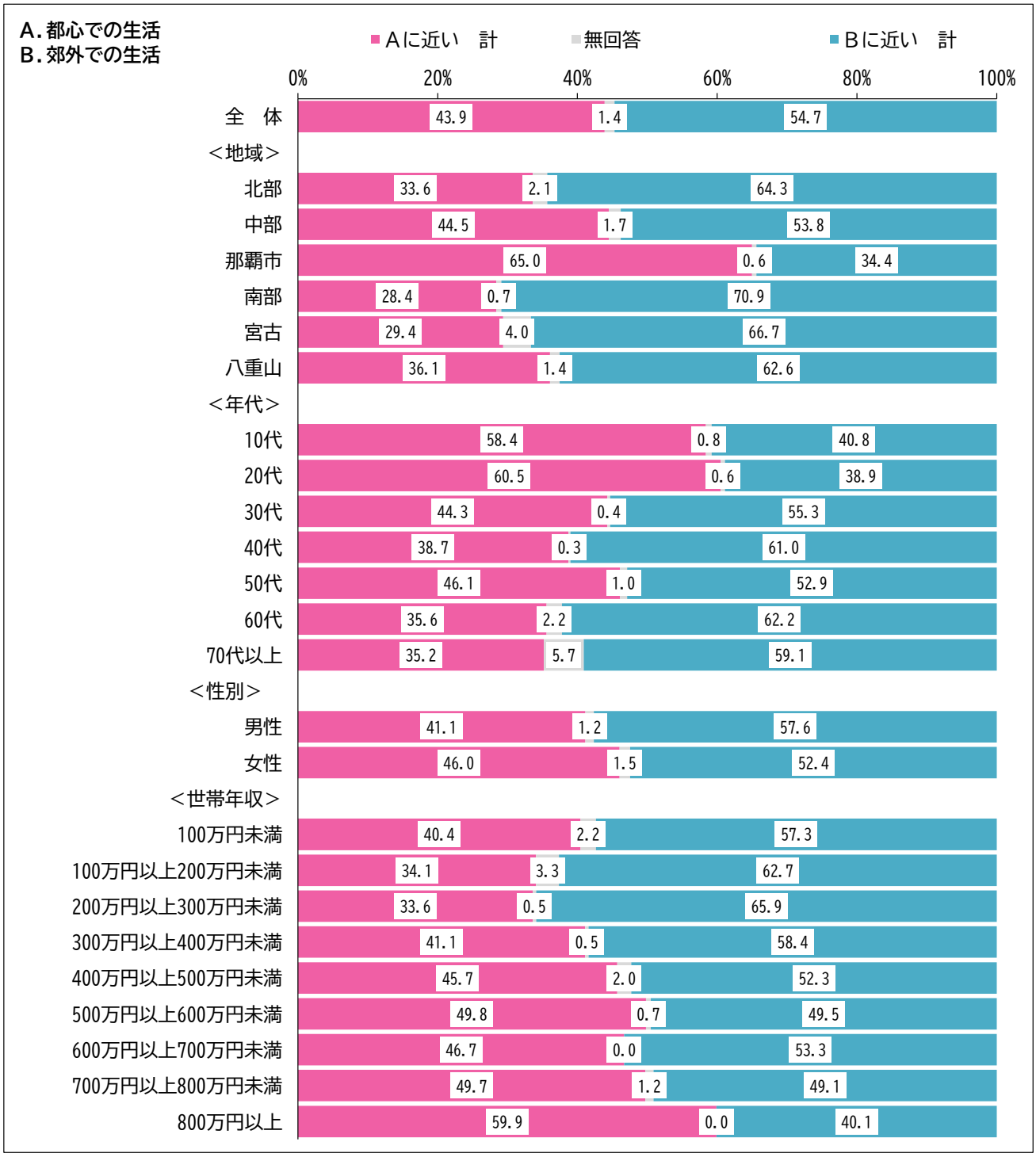
世帯年収別にみると、都心での生活志向派の割合は、世帯年収 800 万円以上(59.9%)が最も高くなっている。

図表Ⅱ－3－12 都心での生活と郊外での生活に関する価値観（時系列比較）



	平成16	平成21	平成24	平成27	平成30	令和3	令和6
Aに近い（計）	36.7	38.9	42.1	42.8	47.6	45.1	43.9
Bに近い（計）	61.8	60.2	56.3	56.2	51.3	53.2	54.7

図表Ⅱ－３－13 都心での生活と郊外での生活に関する価値観（地域別・年代別・性別・世帯年収別）



（８）　改革と保守に関する価値観（問５－７）

改革と保守に関する価値観について、時系列でみると改革派が平成 30 年の調査から増加、保守派は減少していたが、今回調査では改革派(67.7%)は微減し、保守派(30.7%)は微増している。

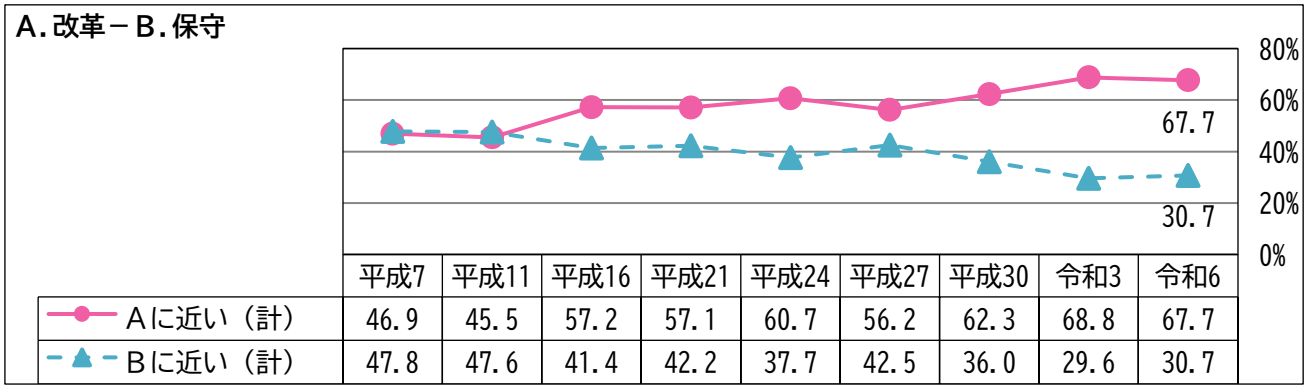
地域別にみると、改革派の割合は宮古(55.6%)を除く地域で6割を超えている。

年代別にみると、改革派の割合は 30 代(82.3%)で最も高くなっている。

性別にみると、改革派の割合は男性(70.3%)が女性(65.6%)を上回っている。

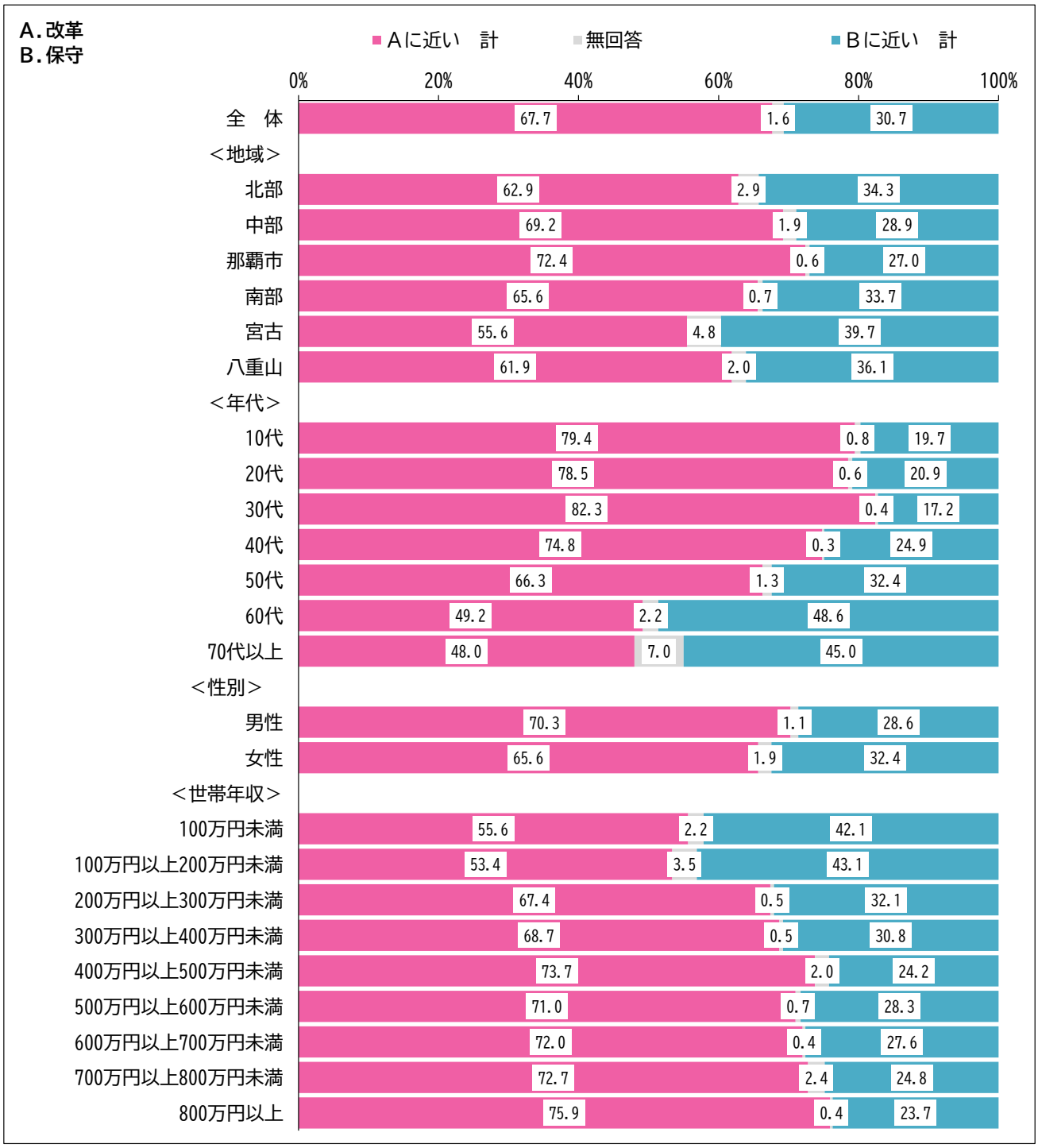
世帯年収別にみると、改革派は、年収 800 万円以上(75.9%)で最も高く、次いで年収 400 万円以上 500 万円未満(73.7%)、年収 700 万円以上 800 万円未満(72.7%)、年収 600 万円以上 700 万円未満(72.0%)、年収 500 万円以上 600 万円未満(71.0%)が7割を超えている。

図表Ⅱ－3－14 改革と保守に関する価値観（時系列比較）



	平成7	平成11	平成16	平成21	平成24	平成27	平成30	令和3	令和6
Aに近い（計）	46.9	45.5	57.2	57.1	60.7	56.2	62.3	68.8	67.7
Bに近い（計）	47.8	47.6	41.4	42.2	37.7	42.5	36.0	29.6	30.7

図表Ⅱ－３－15 改革と保守に関する価値観（地域別・年代別・性別・世帯年収別）



（９）　地方分権と中央集権に関する価値観（問５－８）

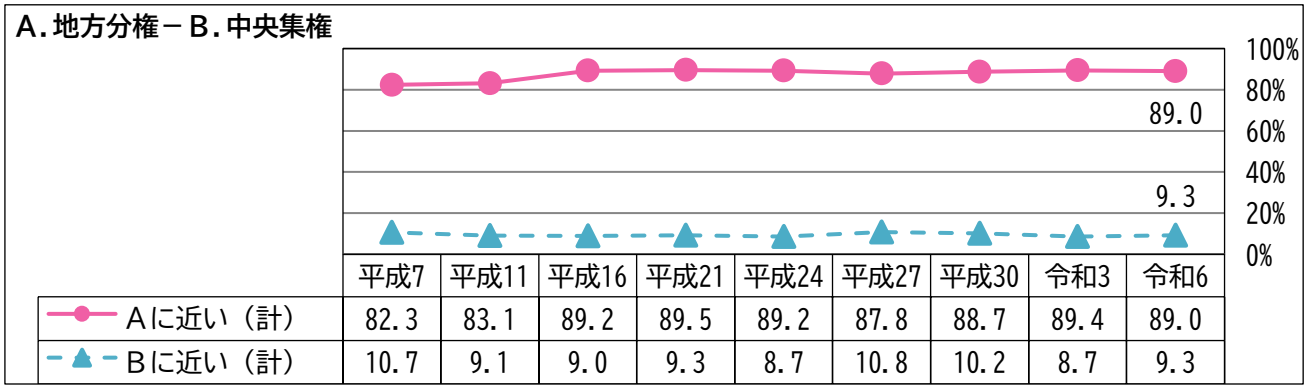
地方分権と中央集権に関する価値観について、時系列でみると、ポイントの増減は小さいが、地方分権の割合が9割弱となっている。

地域別にみると、地方分権の割合は南部（91.6%）で最も高くなっている。

年代別にみると、地方分権の割合は 10 代（91.6%）、・40 代（91.5%）・60 代（92.3%）で9割を超えている。

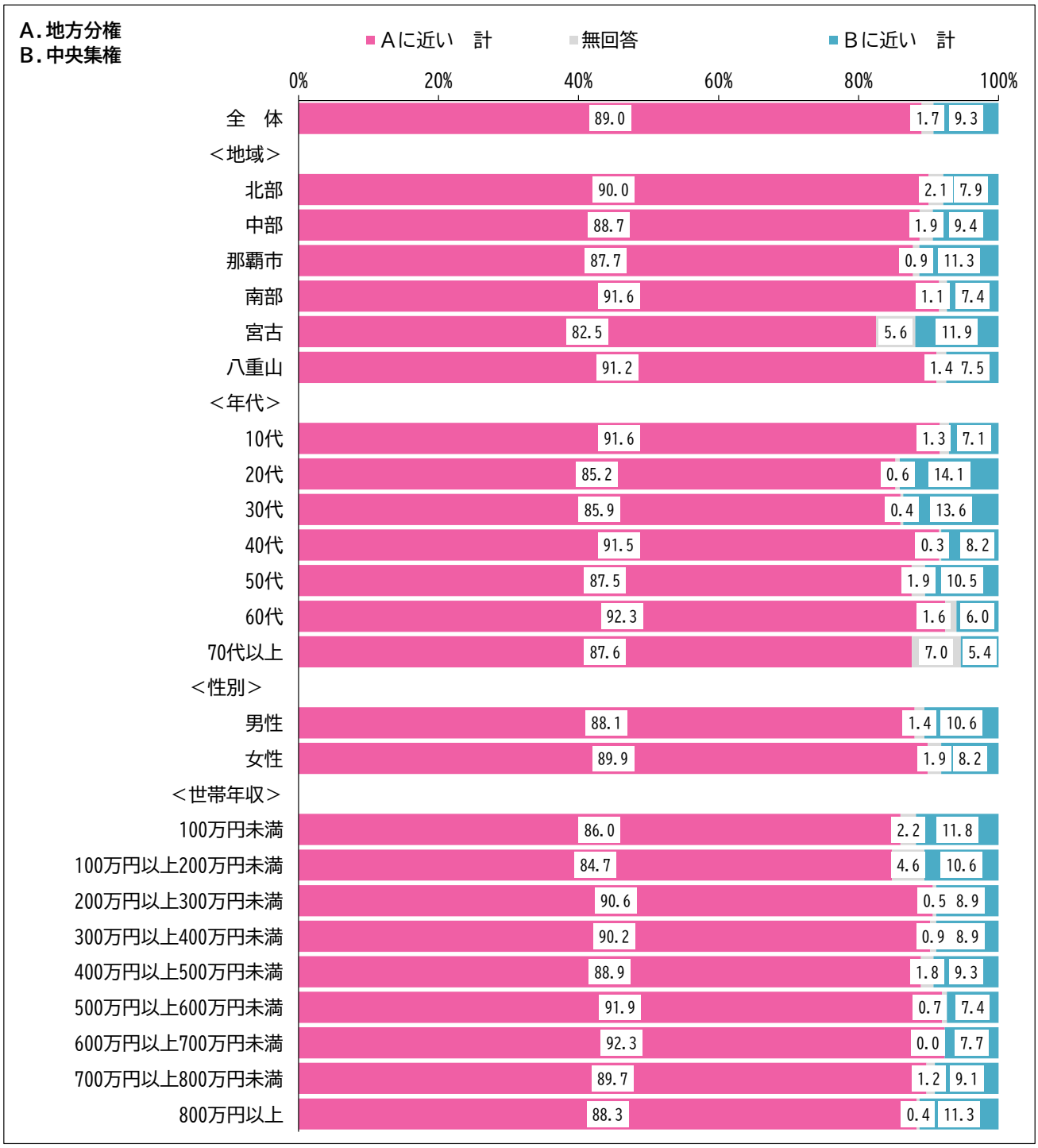
世帯年収別にみると、地方分権の割合は年収 200 万円以上 300 万円未満（90.6%）と 300 万円以上 400 万円未満（90.2%）、500 万円以上 600 万円未満（91.9%）、600 万円以上 700 万円未満（92.3%）で9割を超えている。

図表Ⅱ－3－16 地方分権と中央集権に関する価値観（時系列比較）



	平成7	平成11	平成16	平成21	平成24	平成27	平成30	令和3	令和6
Aに近い（計）	82.3	83.1	89.2	89.5	89.2	87.8	88.7	89.4	89.0
Bに近い（計）	10.7	9.1	9.0	9.3	8.7	10.8	10.2	8.7	9.3

図表Ⅱ－３－17 地方分権と中央集権に関する価値観（地域別・年代別・性別・世帯年収別）



２．生活状態（くらしむき）の意識･変化･見通し（問８）

（１）　生活状態の意識（問８－１）

現在の生活状態（くらしむき）については、「中の中」（42.5%）の割合が最も高く、次いで「中の下」（23.1%）、「中の上」（16.3%）となっている。

時系列にみると、「中の上」での割合は昭和 59 年の調査（7.5%）で最も低く、その後は増加しており、平成 24 年が一旦減少しているが、その後再び増加し、令和6年の調査では 16.3%と高くなっている。

全国（内閣府／国民生活に関する世論調査[令和6年8月 調査]）と比較すると、沖縄県の「中の下」の割合は5ポイント低くなっている。

地域別にみると、「中の上」の割合では、那覇市（19.3%）が最も高く、次いで中部・南部（16.1%）となっている。八重山では「下」（18.4%）が他の地域に比べて高い。

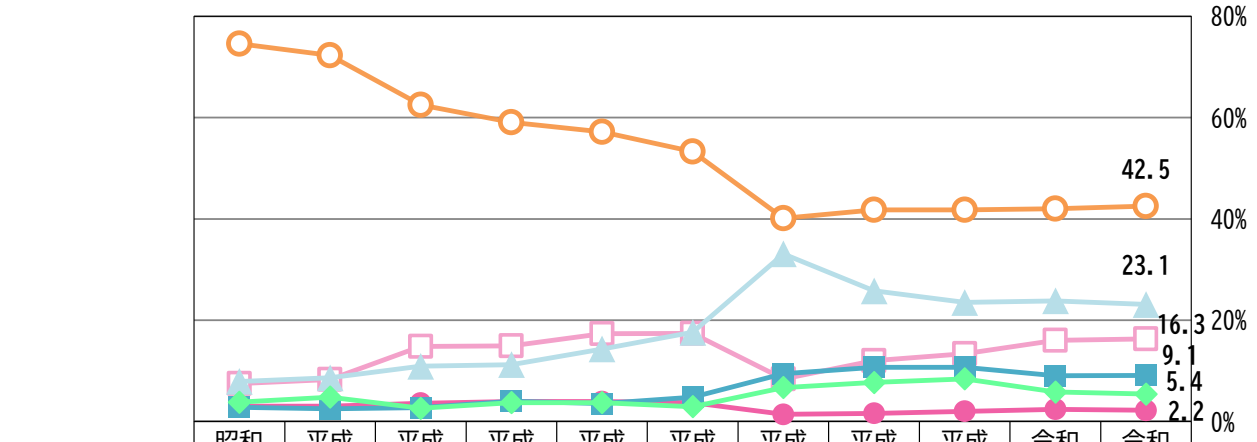
年代別にみると、「中の上」の割合は、概ね年代が高くなるほど低くなっている。

性別にみると、「中の中」の割合は男性（39.1%）より女性（45.1%）で高くなっている。

世帯年収別にみると、「中の上」の割合は概ね年収が高いほど増加し、800 万円以上の世帯年収で4割を超える。「中の下」と「下」の割合は、概ね年収が低いほど高くなる。

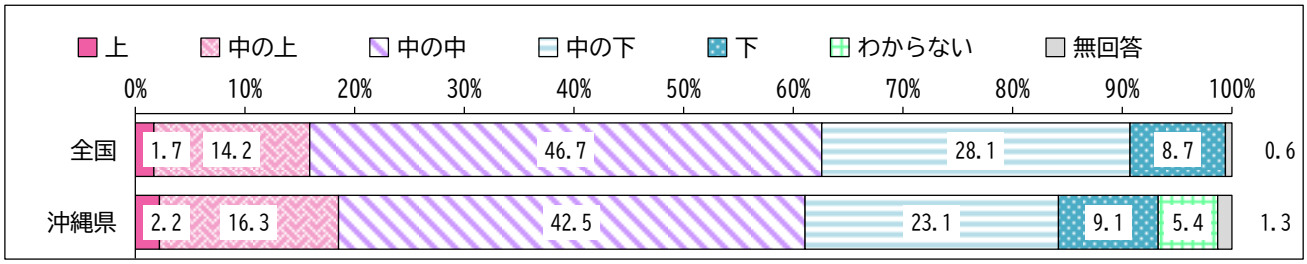
従業上の地位別にみると、雇用者－役員の「中の上」（45.7%）の割合が他の従業地位と比べて高くなっている。

図表Ⅱ－3－18 生活状態の意識（時系列比較）

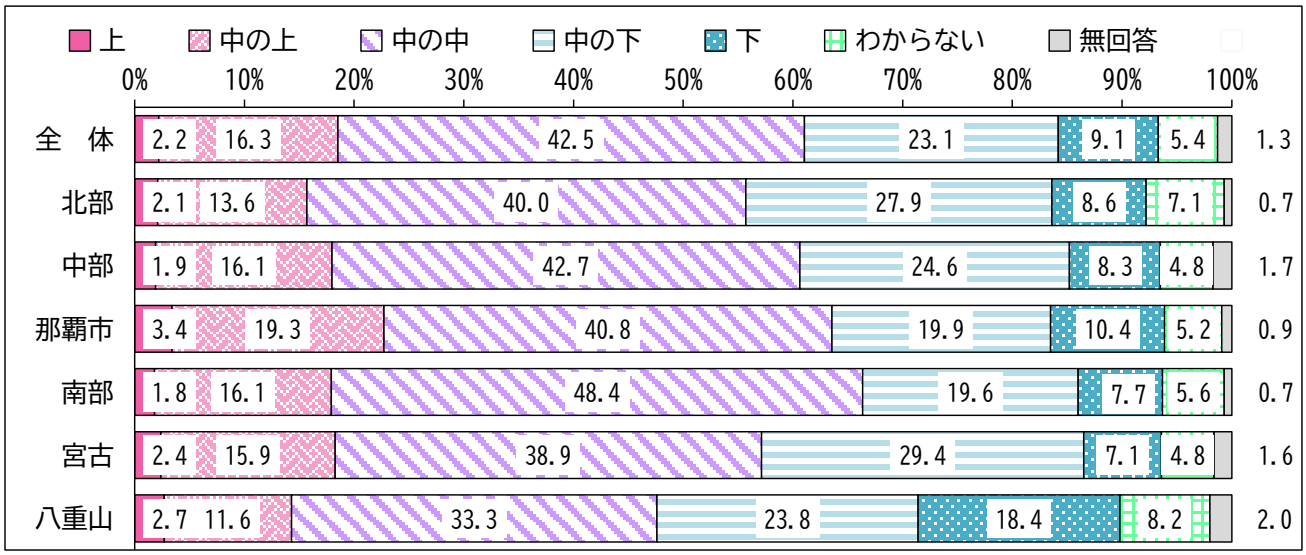


	昭和59	平成2	平成7	平成11	平成16	平成21	平成24	平成27	平成30	令和3	令和6
上	3.0	3.0	3.6	3.9	3.9	3.7	1.4	1.6	2.0	2.4	2.2
中の上	7.5	8.3	14.8	14.9	17.3	17.4	8.4	12.0	13.4	16.0	16.3
中の中	74.6	72.3	62.5	59.1	57.2	53.3	40.1	41.8	41.8	42.0	42.5
中の下	7.9	8.6	10.9	11.2	14.3	17.6	33.1	25.8	23.5	23.8	23.1
下	2.8	2.5	2.7	4.0	3.5	4.8	9.4	10.7	10.7	9.0	9.1
わからない	3.8	4.8	2.6	3.7	3.7	2.9	6.7	7.7	8.4	5.8	5.4

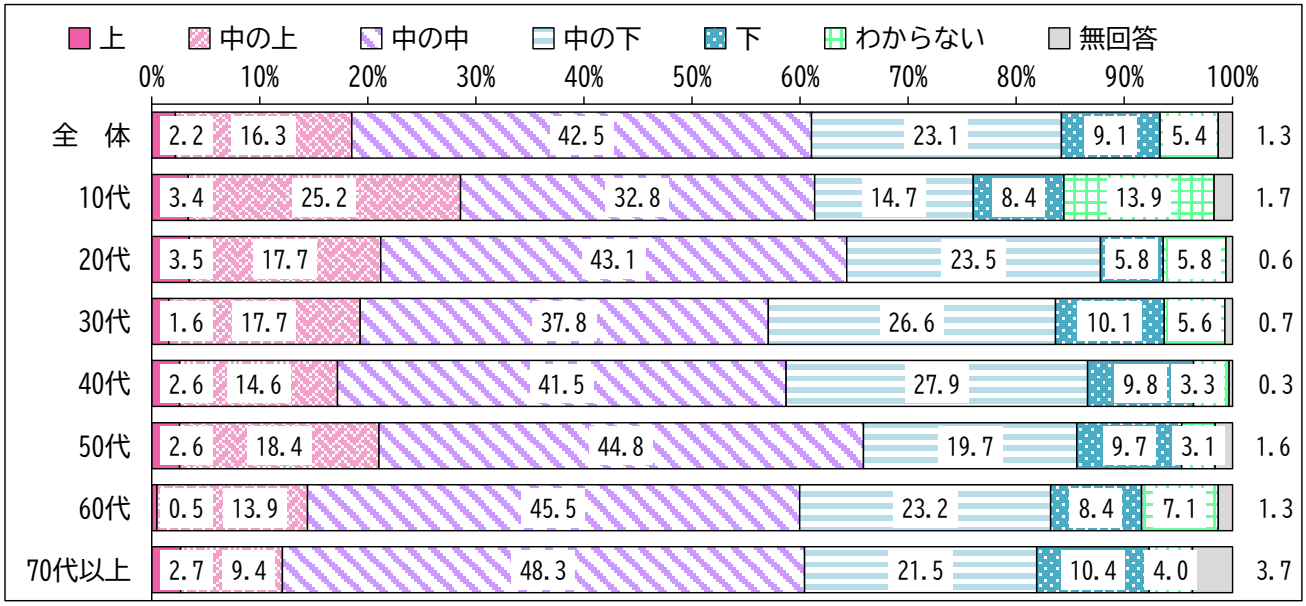
図表Ⅱ－3－19 生活状態の意識（全国調査との比較）



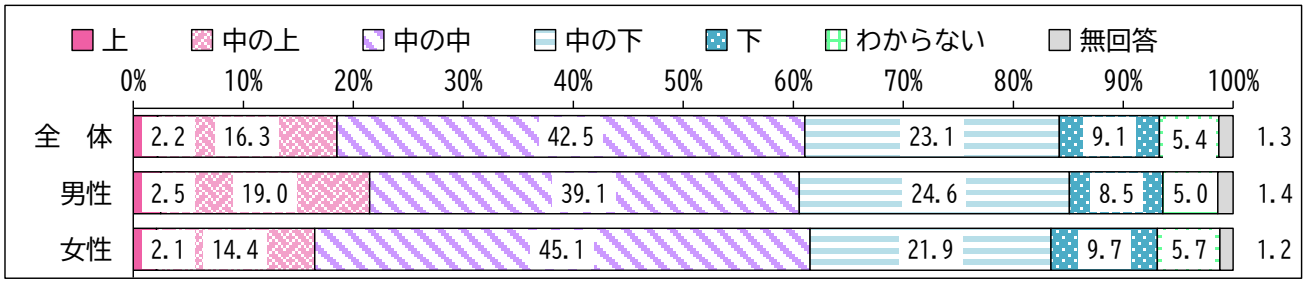
図表Ⅱ－3－20 生活状態の意識（地域別）



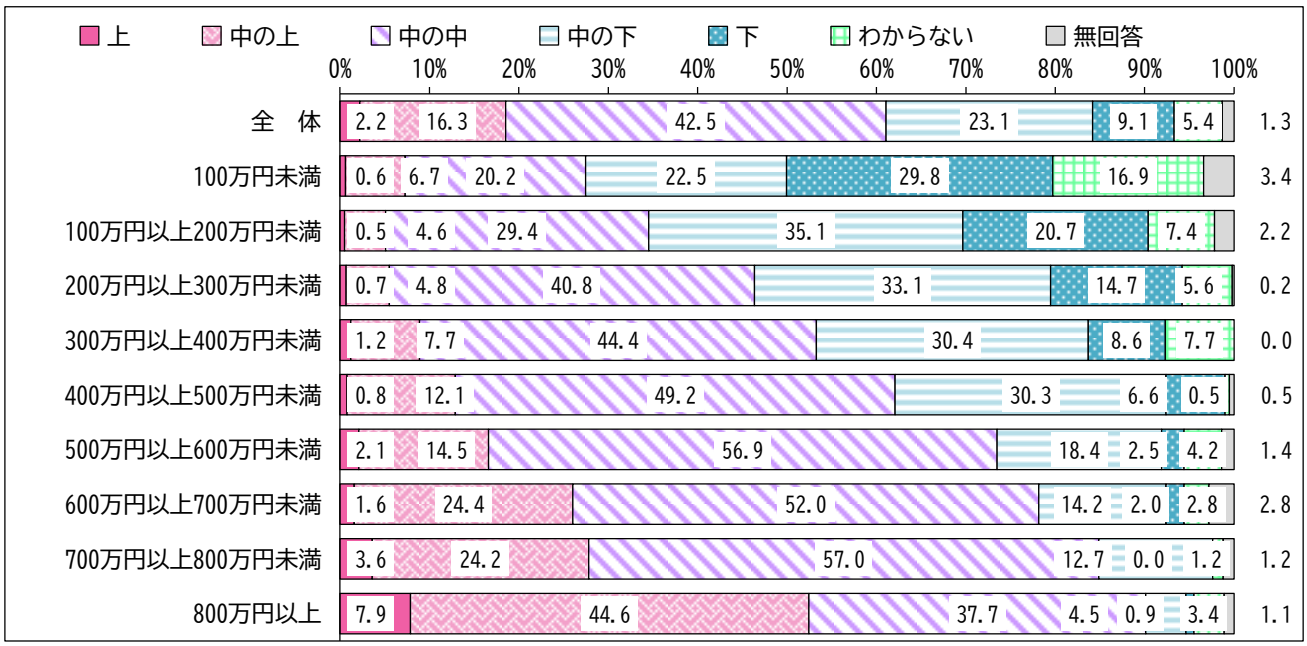
図表Ⅱ－3－21 生活状態の意識（年代別）



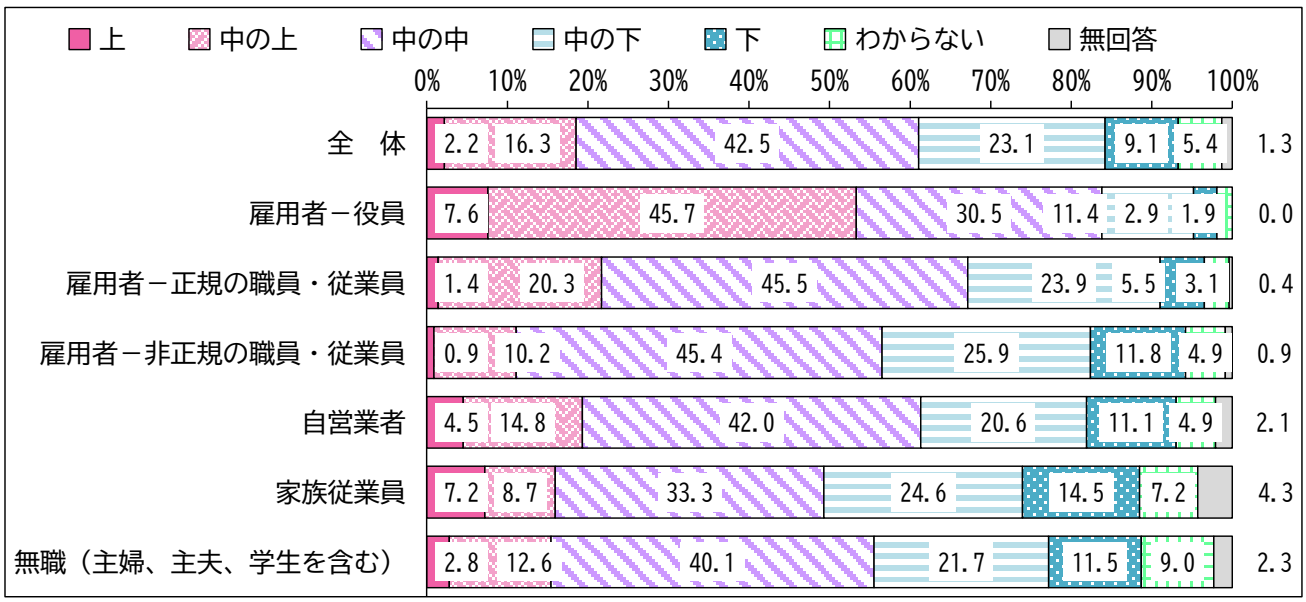
図表Ⅱ－３－22 生活状態の意識（性別）



図表Ⅱ－３－23 生活状態の意識（世帯年収別）



図表Ⅱ－３－24 生活状態の意識（従業上の地位別）



（２）　生活状態の変化（問８－２－１）

4、5年前に比べた現在の生活状態の変化について、「変わらない」(43.2%)の割合が最も高く、次いで「良くなった」(22.6%)、「悪くなった」(20.0%)となっている。

時系列にみると、「極めて良くなった」、「良くなった」の割合は上昇傾向にあったが、今回調査では割合が減少し、「悪くなった」、「極めて悪くなった」の割合は平成 30 年の調査から上昇し続け、令和6年の割合が「悪くなった」が 20.0%、「極めて悪くなった」が 5.9%となっている。

地域別にみると、北部では「極めて良くなった」、「良くなった」を合わせた割合が3割弱と他の地域に比べて高い。

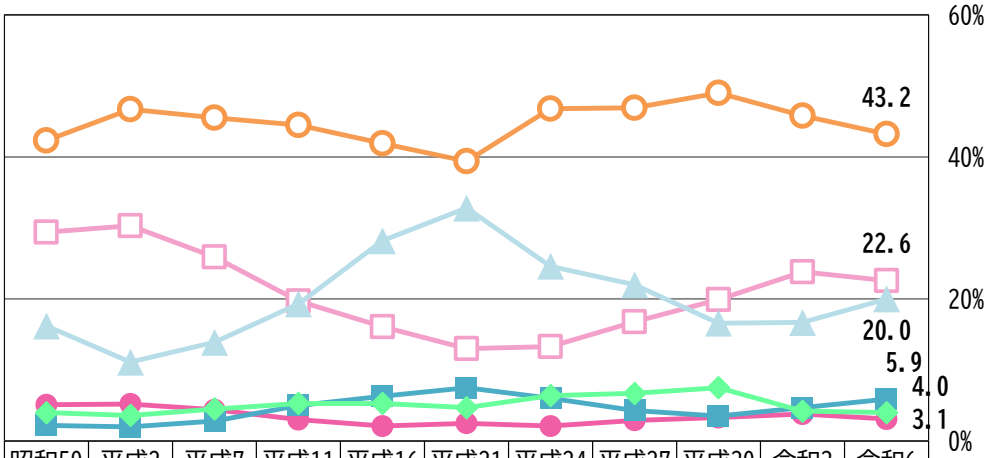
年代別にみると、「良くなった」の割合は、10 代 20 代と徐々に上昇し 30 代(30.2%)が最も高く、その後年代が高まるとともに割合が低くなっている。

性別にみると、「良くなった」の割合は男性(21.9%)よりも女性(23.4%)が高い。

世帯年収別にみると、「良くなった」の割合は概ね年収が高いほど上昇し、800 万円以上の世帯年収では 37.7%となっている。

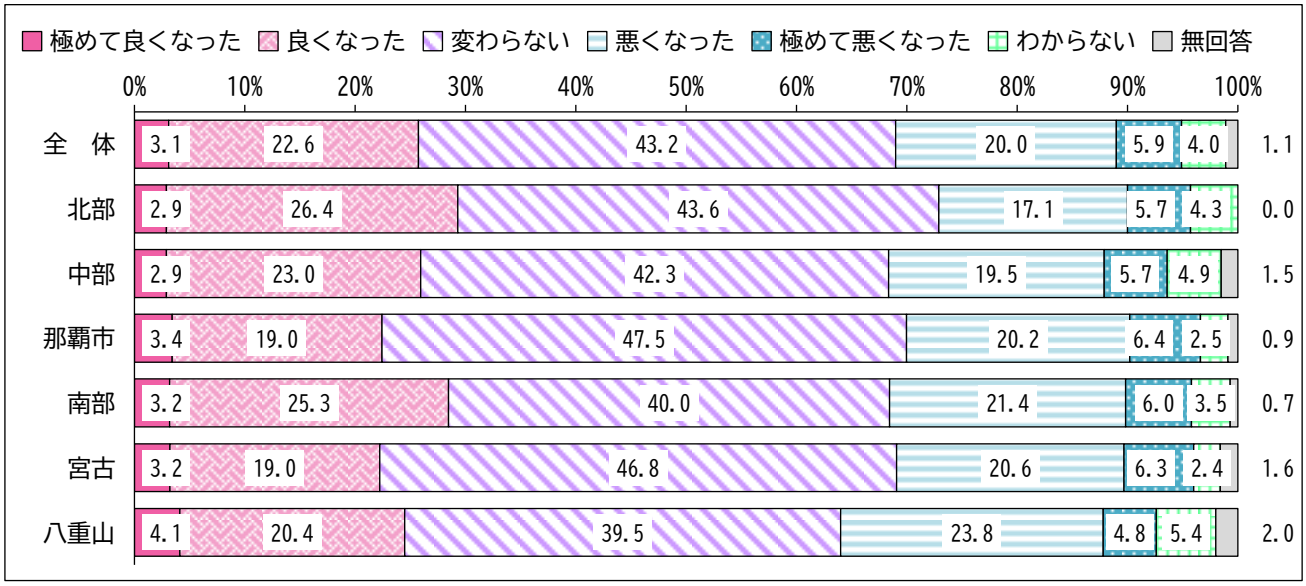
従業上の地位別にみると、「良くなった」の割合は、雇用者－役員(39.0%)で最も高く、次いで家族従業員(29.0%)となっている。

図表Ⅱ－3－25 生活状態の変化（時系列比較）

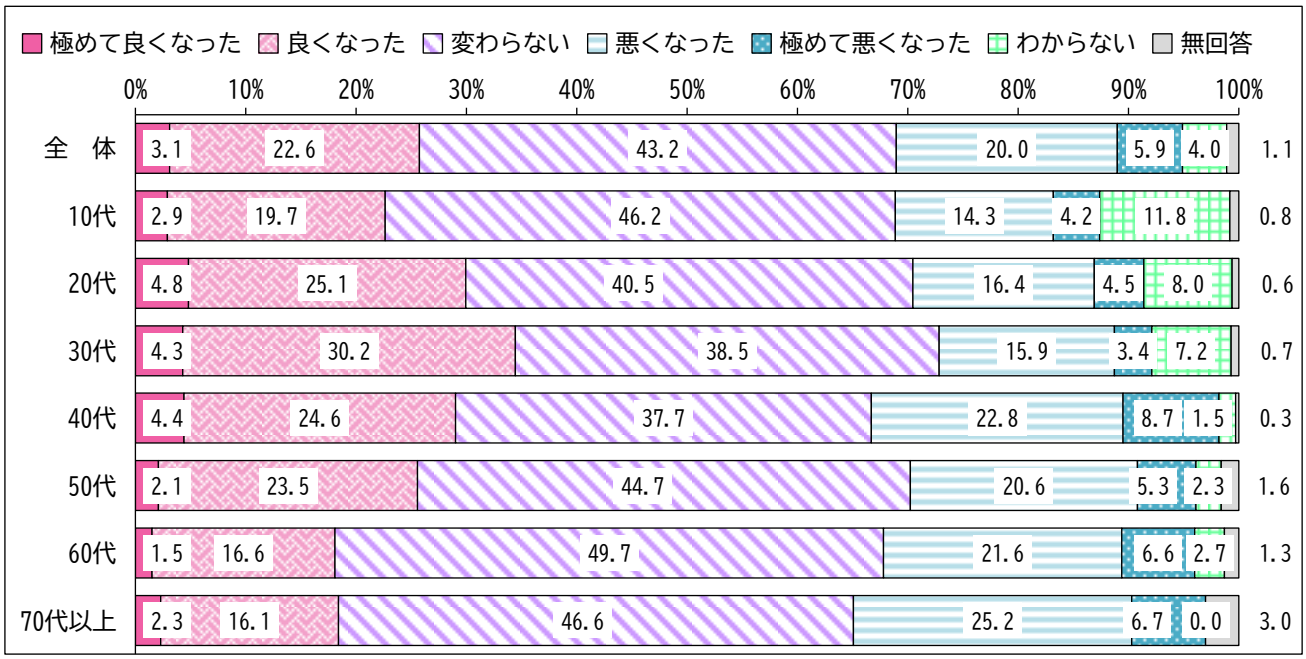


	昭和59	平成2	平成7	平成11	平成16	平成21	平成24	平成27	平成30	令和3	令和6
極めて良くなった	5.1	5.2	4.4	3.0	2.1	2.5	2.1	2.9	3.3	3.8	3.1
良くなった	29.4	30.3	25.9	19.7	16.1	13.0	13.3	16.8	19.9	23.8	22.6
変わらない	42.3	46.7	45.5	44.5	41.9	39.4	46.8	46.9	49.0	45.8	43.2
悪くなった	16.2	11.1	13.9	19.3	28.2	32.8	24.6	22.0	16.6	16.7	20.0
極めて悪くなった	2.2	2.0	2.8	5.0	6.3	7.5	6.0	4.3	3.5	4.7	5.9
わからない	4.0	3.6	4.5	5.3	5.3	4.7	6.4	6.7	7.5	4.2	4.0

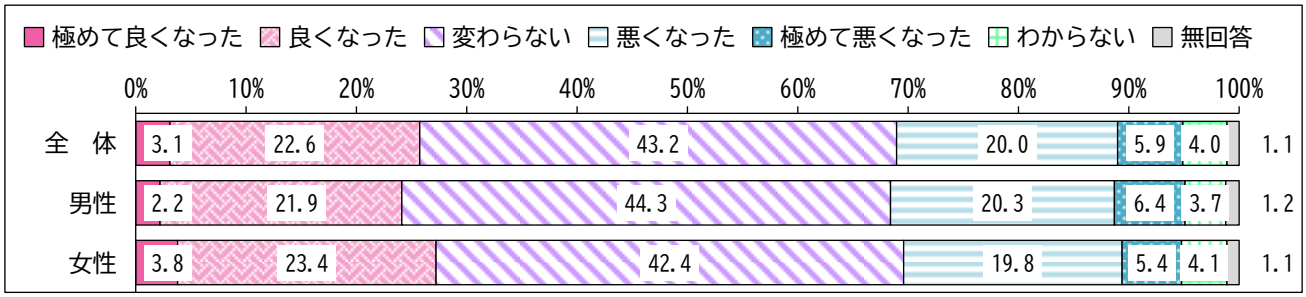
図表Ⅱ－3－26 生活状態の変化（地域別）



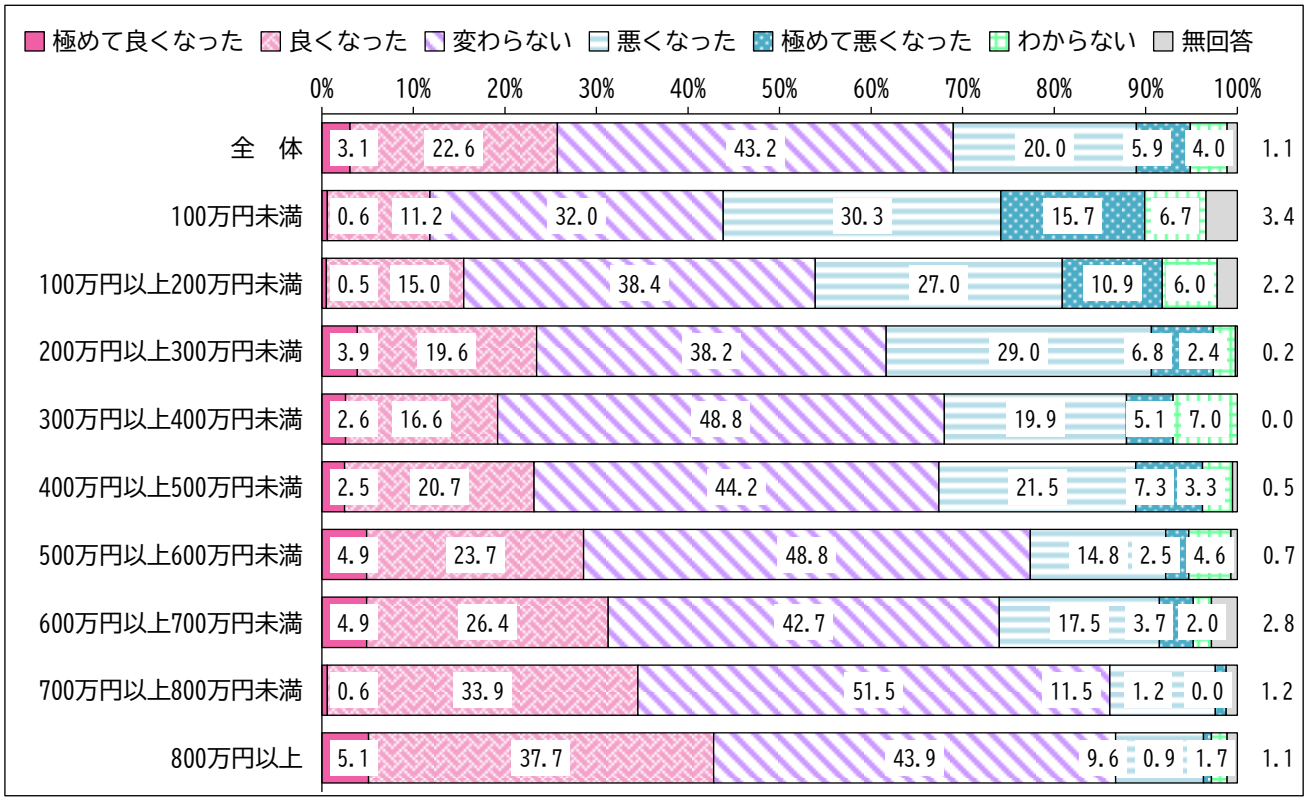
図表Ⅱ－3－27 生活状態の変化（年代別）



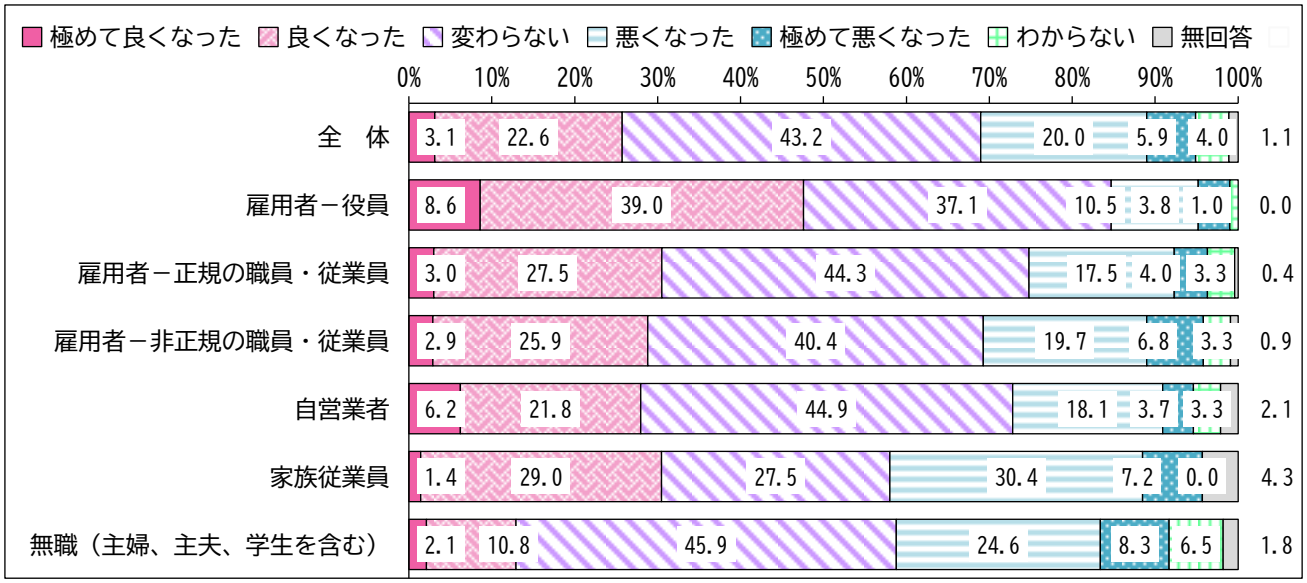
図表Ⅱ－3－28 生活状態の変化（性別）



図表Ⅱ－3－29 生活状態の変化（世帯年収別）



図表Ⅱ－3－30 生活状態の変化（従業上の地位別）



（３）　生活状態の見通し（問８－２－２）

今後の生活状態の見通しについて、「変わらないと思う」(37.5%)の割合が最も高く、次いで「悪くなると思う」(24.7%)、「良くなると思う」(19.1%)となっている。

時系列にみると、「悪くなると思う」の割合は令和3年度調査(19.2%)と比較すると、今回調査(24.7%)は 5.5 ポイント高くなっている。

地域別にみると、「極めて良くなると思う」では南部(5.3%)、「良くなると思う」では北部(21.4%)、「極めて悪くなると思う」では那覇市(6.4%)で他の地域と比べて高くなっている。

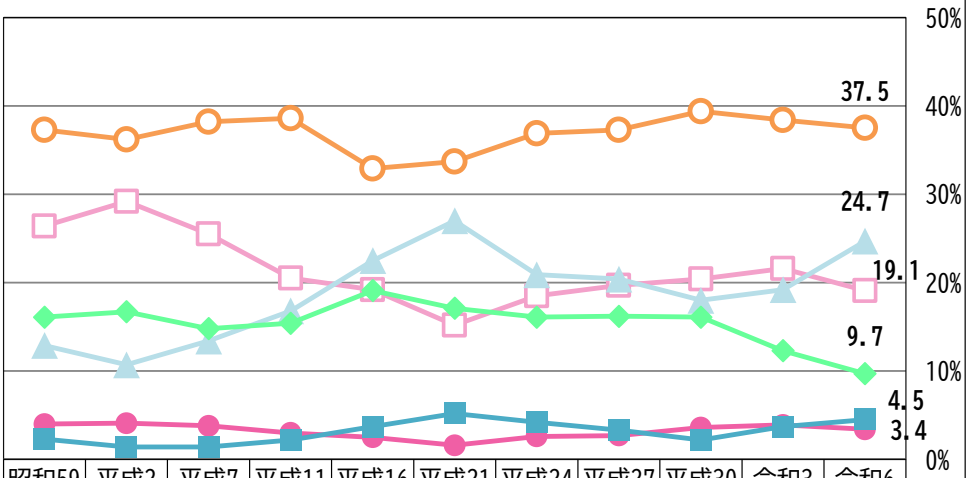
年代別にみると、「極めて良くなると思う」の割合は 20 代(8.7%)で最も高い。

性別にみると、「良くなると思う」の割合は女性(17.2%)よりも男性(21.7%)が高くなっている。

世帯年収別にみると、「悪くなると思う」の割合は 100 万円未満(33.7%)で3割を超えている。

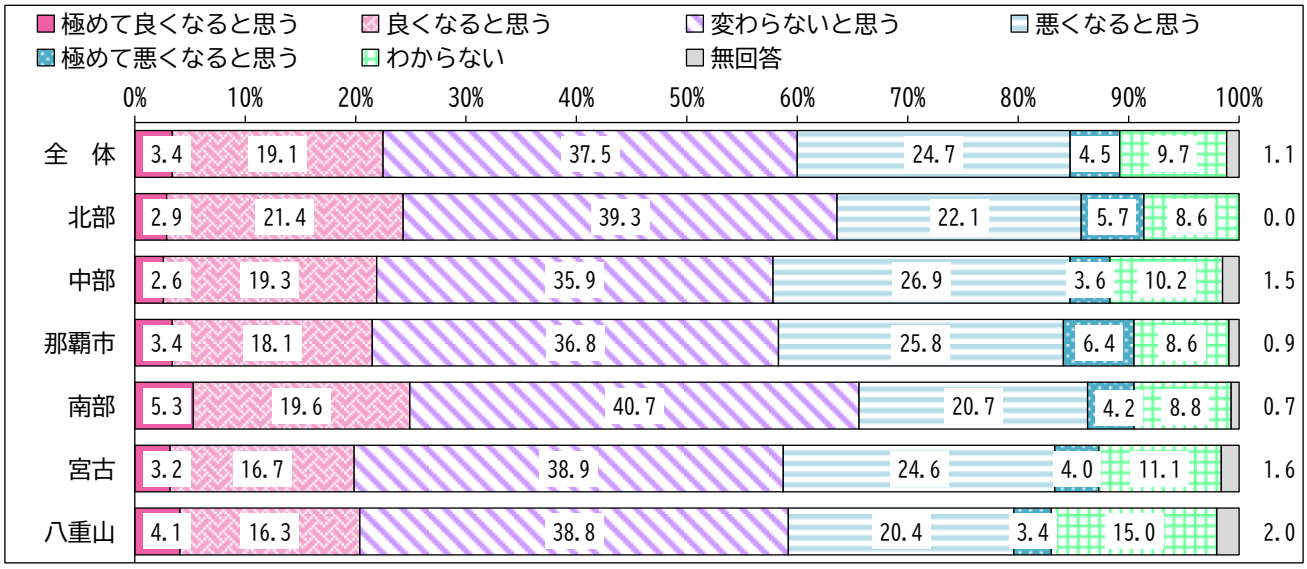
従業上の地位別にみると、「極めて良くなると思う」の割合は自営業者(6.6%)が最も高く、「悪くなると思う」の割合は家族従業員(29.0%)が他の従業地位と比べて高くなっている。

図表Ⅱ－3－31 生活状態の見通し（時系列比較）

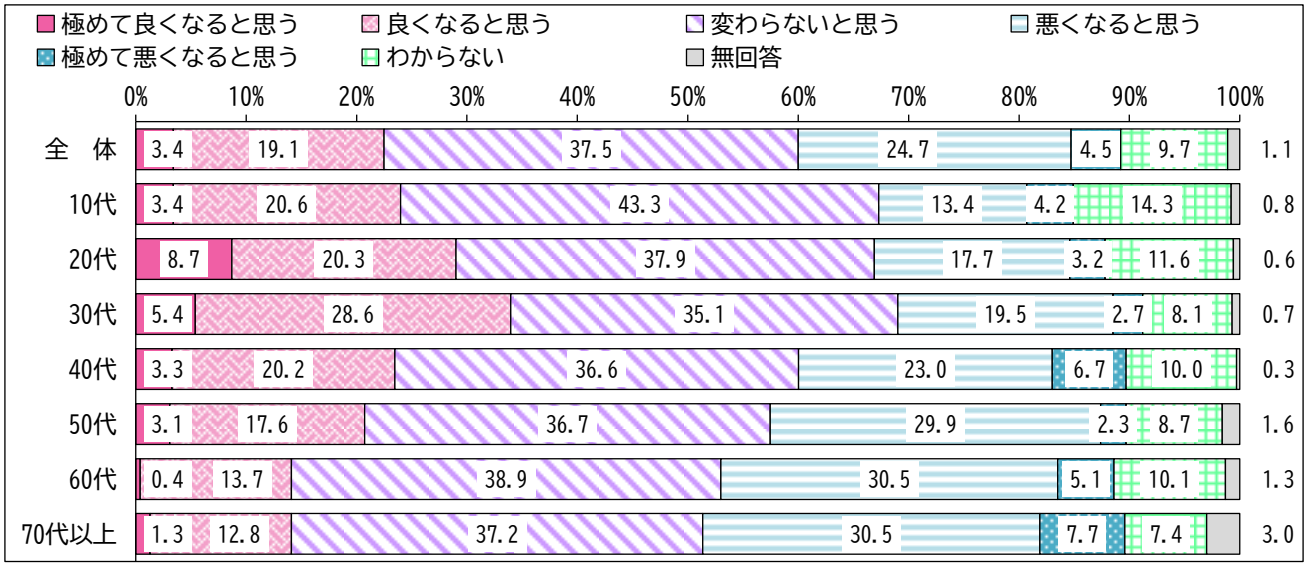


	昭和59	平成2	平成7	平成11	平成16	平成21	平成24	平成27	平成30	令和3	令和6
極めて良くなると思う	4.0	4.1	3.8	3.0	2.5	1.6	2.6	2.7	3.6	3.9	3.4
良くなると思う	26.4	29.2	25.5	20.5	19.2	15.2	18.5	19.7	20.4	21.6	19.1
変わらないと思う	37.3	36.2	38.2	38.6	32.9	33.7	36.9	37.3	39.4	38.4	37.5
悪くなると思う	12.9	10.7	13.4	16.8	22.5	27.0	20.9	20.4	18.0	19.2	24.7
極めて悪くなると思う	2.3	1.4	1.4	2.2	3.7	5.2	4.2	3.3	2.2	3.7	4.5
わからない	16.1	16.7	14.8	15.4	19.1	17.1	16.1	16.2	16.1	12.3	9.7

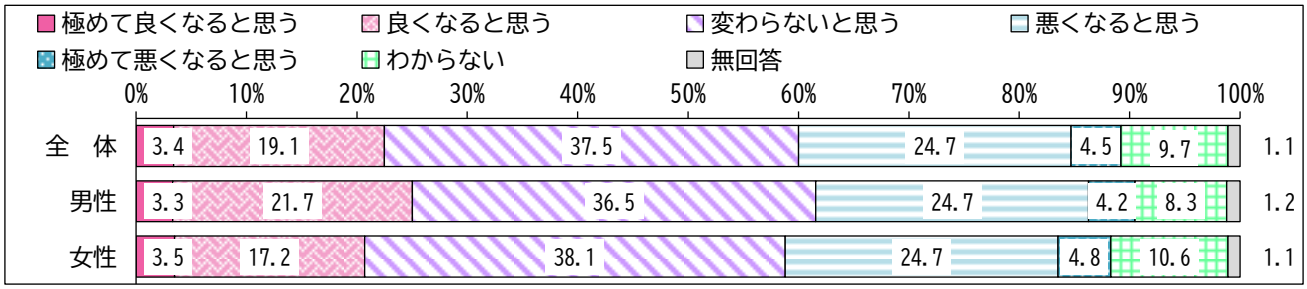
図表Ⅱ－3－32 生活状態の見通し（地域別）



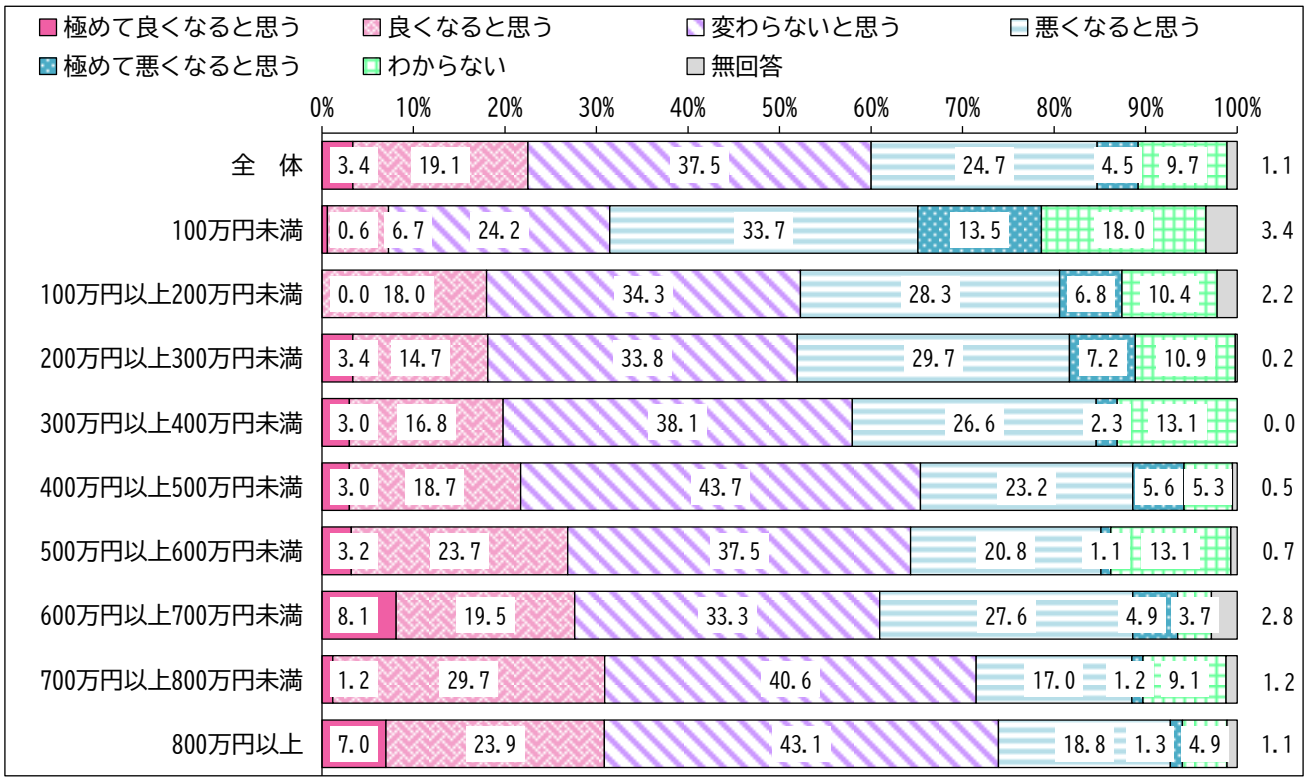
図表Ⅱ－3－33 生活状態の見通し（年代別）



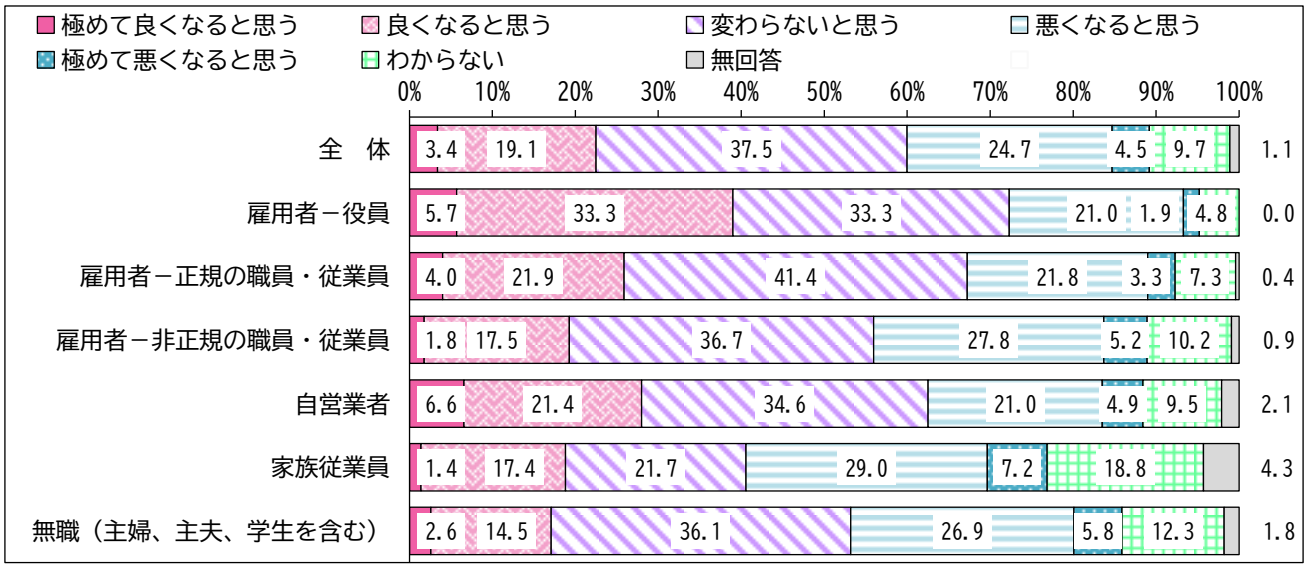
図表Ⅱ－3－34 生活状態の見通し（性別）



図表Ⅱ－３－35 生活状態の見通し（世帯年収別）



図表Ⅱ－３－36 生活状態の見通し（従業上の地位別）



３．生活状態（くらしむき）の希望と現在の状況（問９）

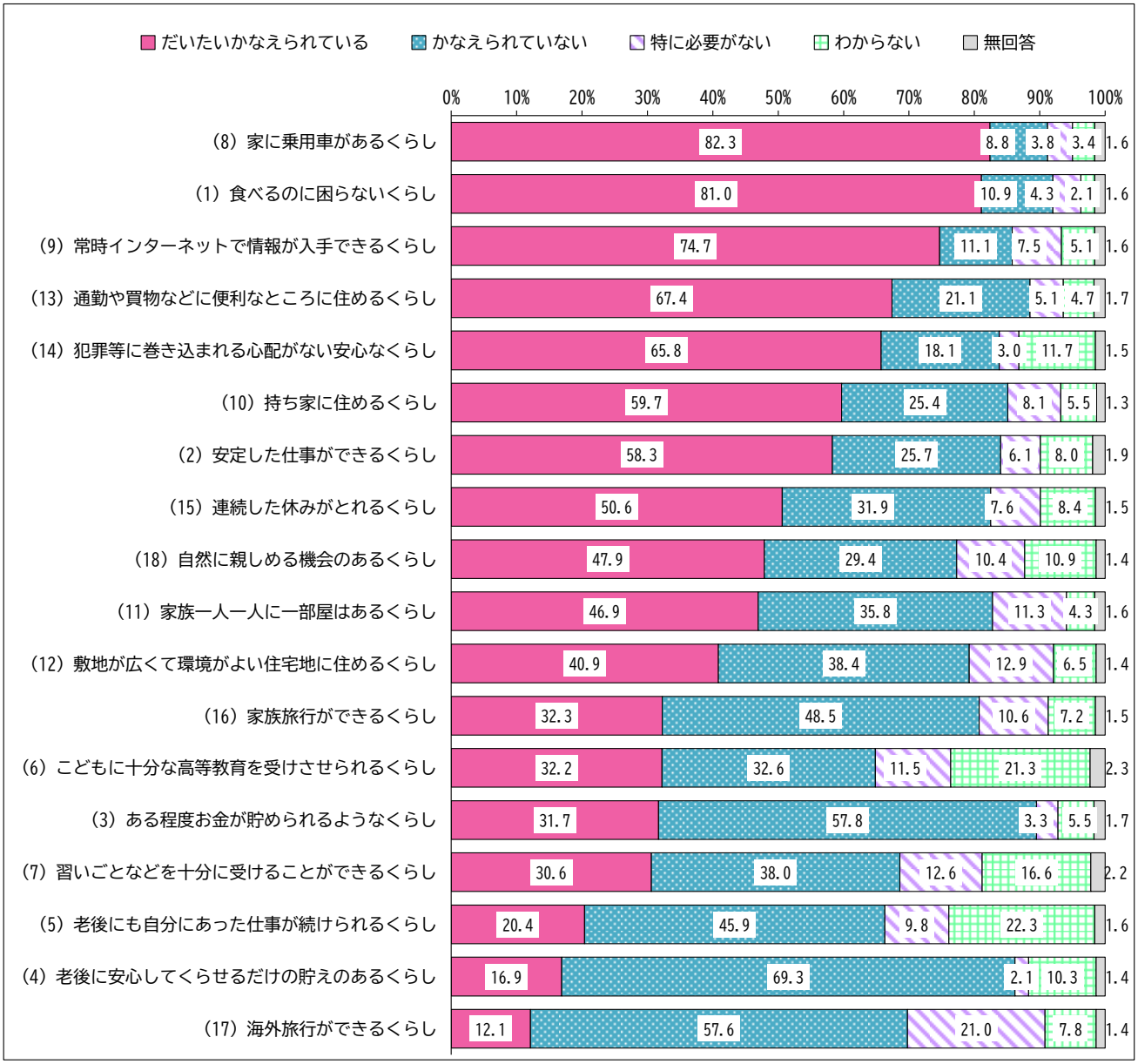
（１）　生活状態の達成度と希望（問９）

生活状態の達成と希望について、「だいたいかなえられている」の割合は「(8)家に乗用車があるくらし」(82.3%)が最も高く、次いで、「(1)食べるのに困らないくらし」(81.0%)、「(9)常時インターネットで情報が入手できるくらし」(74.7%)となっている。

時系列でみると、「(2)安定した仕事ができるくらし」、「(5)老後にも自分にあった仕事が続けられるくらし」、「(9)(常時インターネットで情報が入手できるくらし」、「(15)連続した休みがとれるくらし」、「(16)家族旅行ができるくらし」の割合は平成 16 年度調査以降、達成度の割合が高まっている。

また、今回初めて令和3年度まで1位だった「(1)食べるのに困らないくらし」を「(8)家に乗用車があるくらし」が上回った。

図表Ⅱ－3－37 生活状態の達成度と希望



図表Ⅱ－3－38 生活状態の達成度と希望（時系列比較）

（%）	令和6	令和3	平成30	平成27	平成24	平成21	平成16
(1) 食べるのに困らないくらし	81.0	83.1	81.3	79.8	79.0	77.0	81.6
(2) 安定した仕事ができるくらし	58.3	57.3	54.2	50.6	46.3	45.7	42.8
(3) ある程度お金が貯められるようなくらし	31.7	32.2	27.6	26.1	23.9	20.7	22.8
(4) 老後に安心してくらせるだけの貯えのあるくらし	16.9	16.4	15.2	15.6	15.0	11.4	11.8
(5) 老後にも自分にあった仕事が続けられるくらし	20.4	19.4	18.1	16.6	14.3	11.7	11.5
(6) こどもに十分な高等教育を受けさせられるくらし	32.2	31.3	28.3	29.4	25.6	24.5	26.1
(7) 習いごとなどを十分に受けることができるくらし	30.6	30.1	27.7	27.0	23.9	20.2	24.6
(8) 家に乗用車があるくらし	82.3	81.0	77.9	79.7	76.9	77.2	81.0
(9) 常時インターネットで情報が入手できるくらし	74.7	72.0	62.1	55.5	47.9	39.5	0.0
(10) 持ち家に住めるくらし	59.7	53.7	53.0	50.6	50.2	47.6	51.0
(11) 家族一人一人に一部屋はあるくらし	46.9	45.2	44.4	41.7	41.2	37.2	42.1
(12) 敷地が広くて環境がよい住宅地に住めるくらし	40.9	37.9	33.8	34.9	32.8	31.7	32.0
(13) 通勤や買物などに便利なところに住めるくらし	67.4	71.4	65.5	63.8	63.1	61.0	62.2
(14) 犯罪等に巻き込まれる心配がない安心なくらし	65.8	66.3	61.7	60.4	52.2	54.9	48.8
(15) 連続した休みがとれるくらし	50.6	46.2	39.1	35.7	30.3	29.9	29.8
(16) 家族旅行ができるくらし	32.3	25.7	25.7	24.2	19.2	17.8	17.4
(17) 海外旅行ができるくらし	12.1	10.8	12.0	11.1	10.4	7.7	7.3
(18) 自然に親しめる機会のあるくらし	47.9	49.1	44.4	43.8	－	－	－